

# 第2章

---

## 調査結果



## 第2章 調査結果

## 1 体格 (BMIの状況)

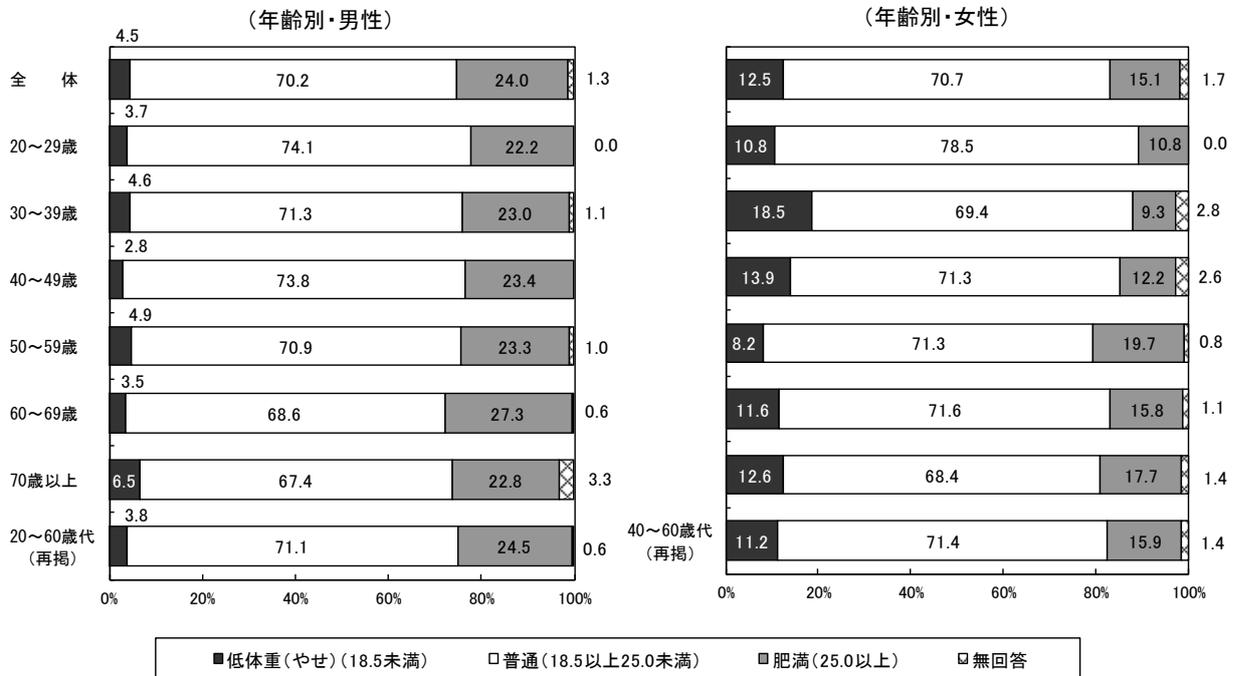
問6 あなたの身長と体重を記入してください。

男性の2割強が肥満 (BMI25.0以上)、女性の1割強が低体重 (やせ) (BMI18.5未満)

男性では、肥満 (BMI25.0以上) 者の割合が60歳代 (27.3%) で3割弱と最も高く、以下40歳代 (23.4%)、30歳代 (23.0%) となっている。

女性では、肥満 (BMI25.0以上) 者の割合は50歳代 (19.7%) で約2割と最も高くなっている。一方、低体重 (やせ) (BMI18.5未満) 者の割合は、30歳代 (18.5%) が2割弱で高くなっている。

図1.1 BMIの区分による肥満・普通・やせの者の割合



	計	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,565	119	195	222	226	364	420	19
男性	707	54	87	107	103	172	184	0
女性	817	65	108	115	122	190	215	2

(人)

※性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

$$\text{BMI} = \frac{\text{体重 [kg]} \div \text{身長 [m]} \div \text{身長 [m]}}{\text{身長 [m]}}$$

BMI < 18.5      低体重 (やせ)  
 18.5 ≤ BMI < 25.0      普通体重 (正常)  
 25.0 ≤ BMI      肥満

## 2 「食育」に対する意識

## 「食育」とは

「食育」は、心身の健康増進と豊かな人間形成のために、食に関する知識や食を選択する力を身に付け、健全な食生活を実践することができるひとを育てることです。その中には、規則正しい食生活や栄養バランスのとれた食事などを実践したり、食を通じたコミュニケーションやマナー、あいさつなどの食に関する基礎を身に付けたり、自然の恵みへの感謝や伝統的な食文化などへの理解を深めたりすることが含まれます。

## (1) 「食育」への関心度

問7 あなたは、「食育」に関心がありますか。(〇は1つだけ)

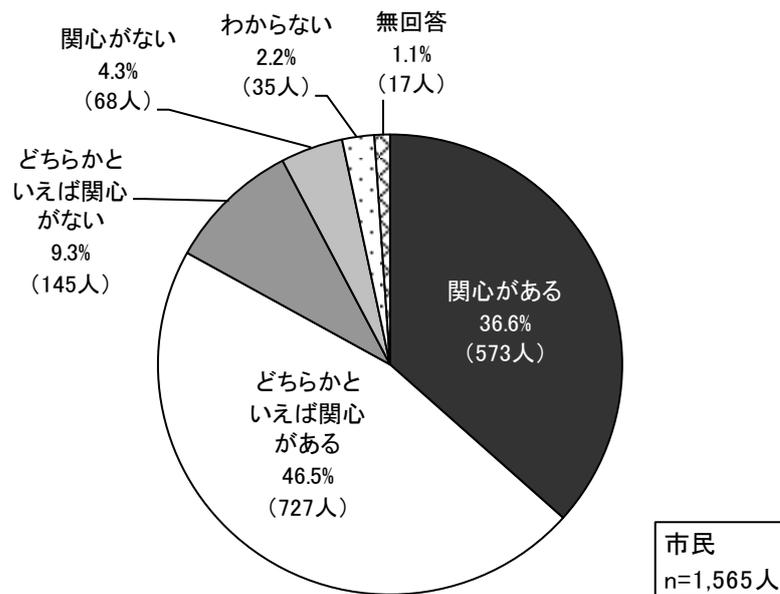
8割強が「関心がある」「どちらかといえば関心がある」と回答

## 【全体結果】

「関心がある」(36.6%)、「どちらかといえば関心がある」(46.5%)と回答した人を合わせた割合は8割強(83.1%)となっている。

一方、「関心がない」(4.3%)、「どちらかといえば関心がない」(9.3%)と回答した人を合わせた割合は1割強(13.6%)となっている。

図 2.1-1 「食育」への関心度



【性別・年齢別】

「関心がある」「どちらかといえば関心がある」と回答した人の割合は、男性（76.7%）に対し女性（88.7%）の方が高くなっている。特に40歳代～60歳代の女性が高く、9割を超えている。

図 2.1-2 「食育」への関心度（年齢別・全体）

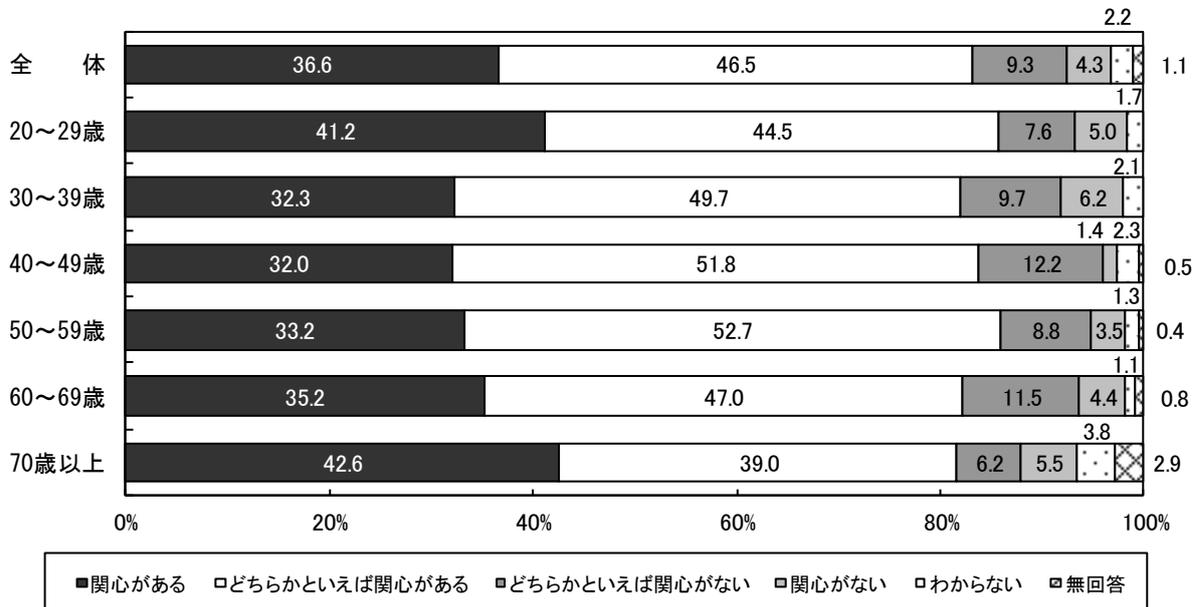
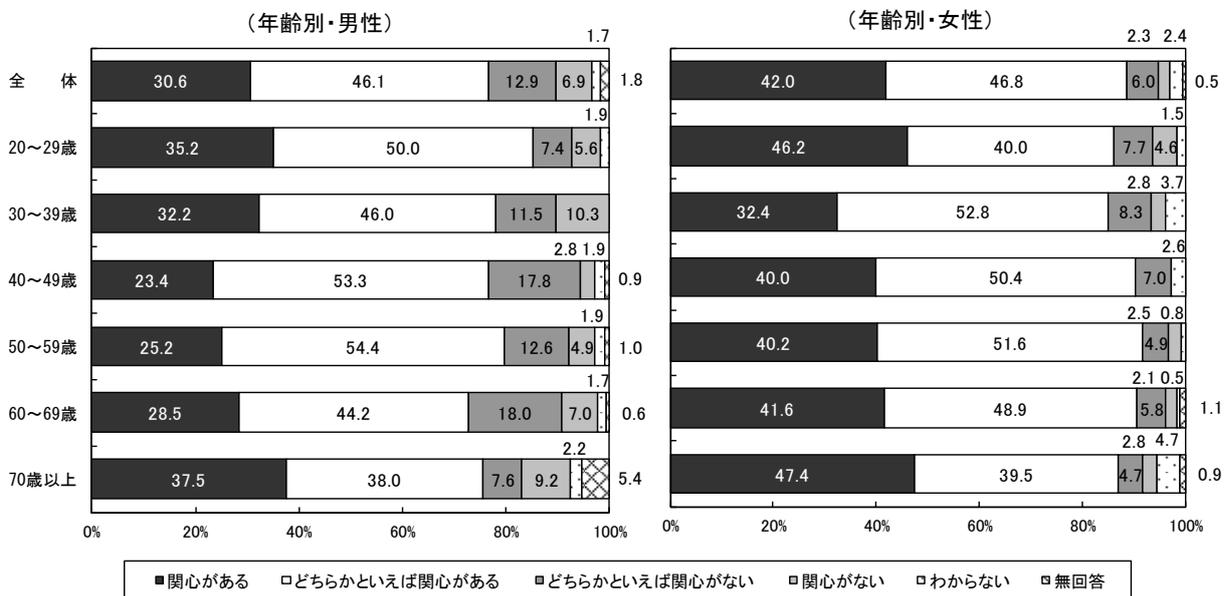


図 2.1-3 「食育」への関心度



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,565	119	195	222	226	364	420	19
男性	707	54	87	107	103	172	184	0
女性	817	65	108	115	122	190	215	2

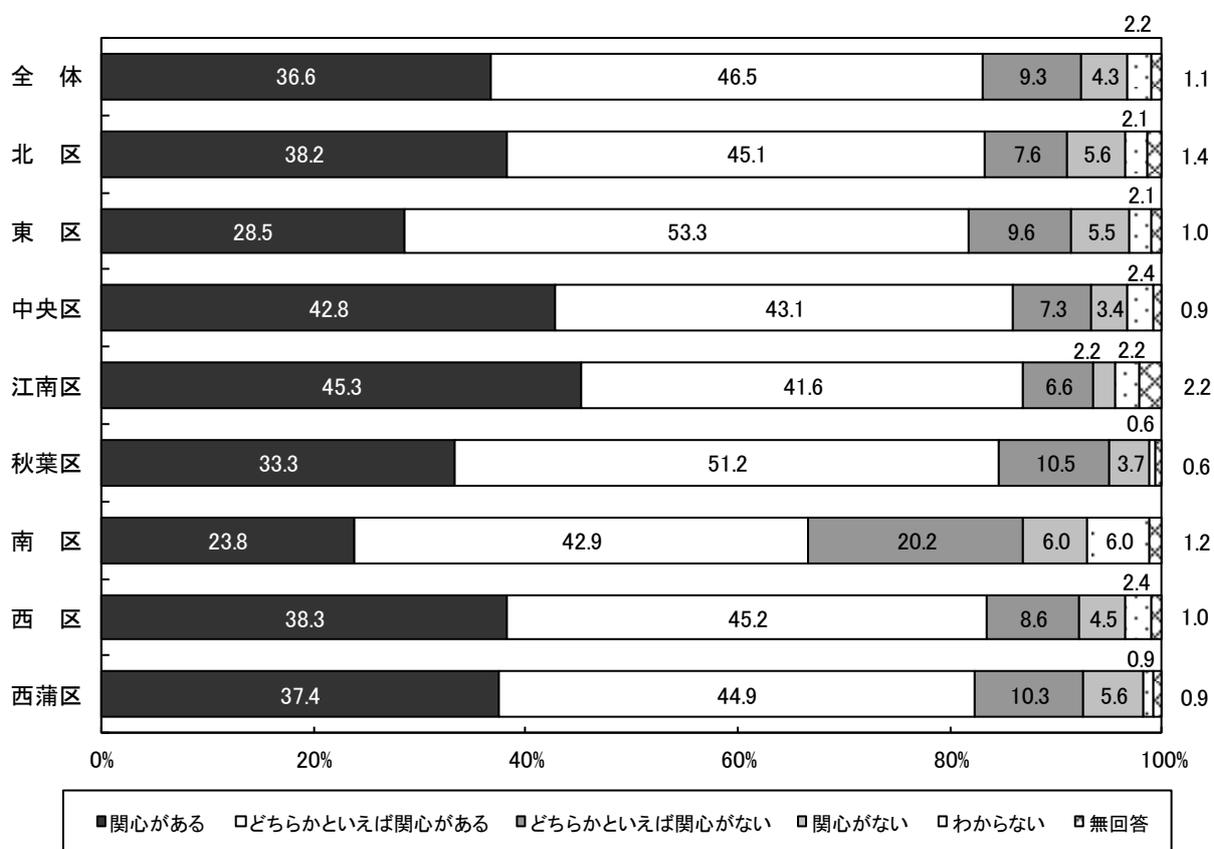
(人)

※性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

## 【地区別】

「関心がある」「どちらかといえば関心がある」と回答した人の割合は、江南区（86.9%）で最も高く、南区（66.7%）では他の地区に比べ低くなっている。

図 2.1-4 「食育」への関心度（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,565	144	291	327	137	162	84	290	107	23

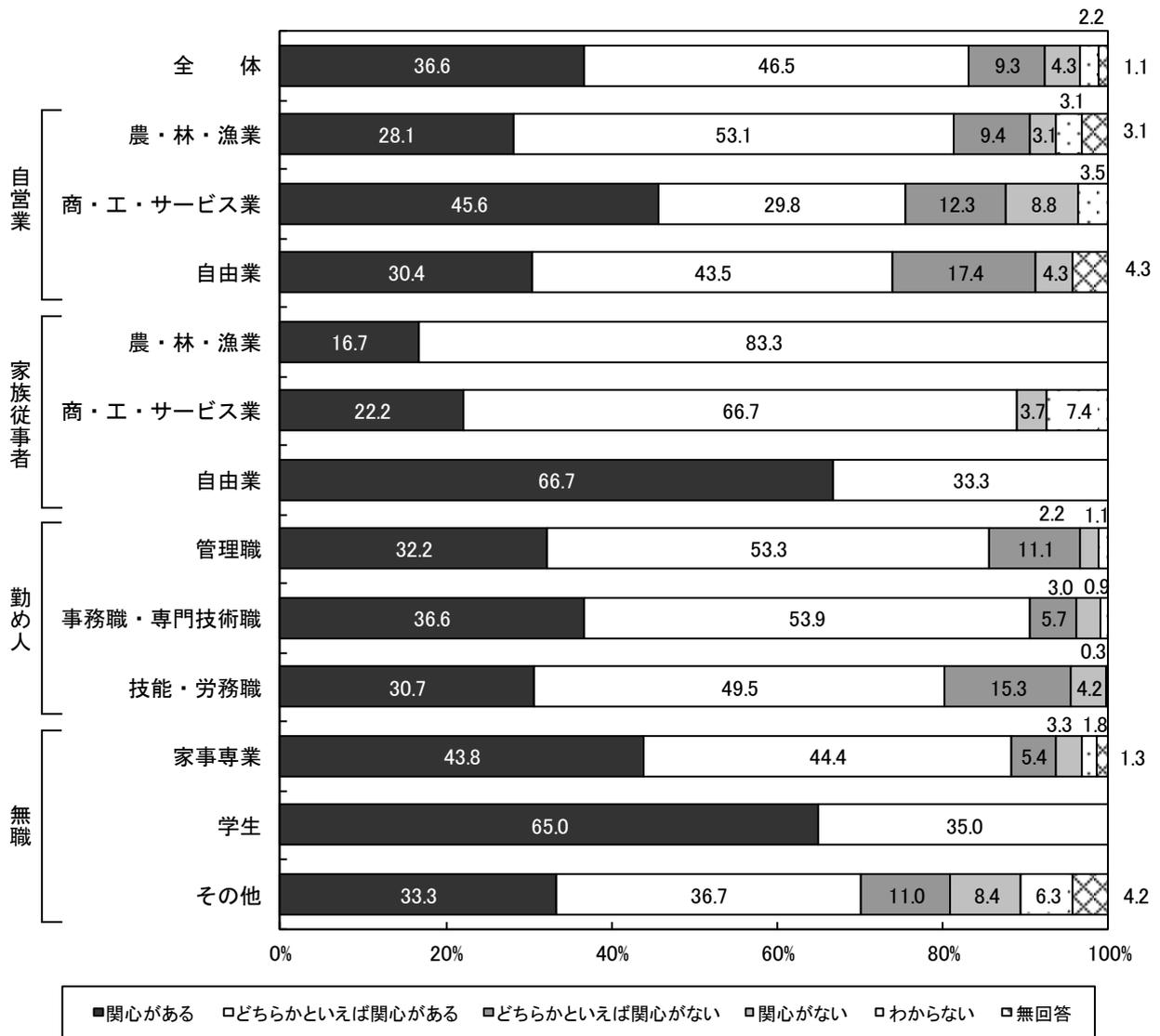
(人)

※地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 2.1-5 「食育」への関心度（職業別）



全体	自営業			家族従事者		
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業
1,565	32	57	23	6	27	9

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
90	336	287	390	20	237	51

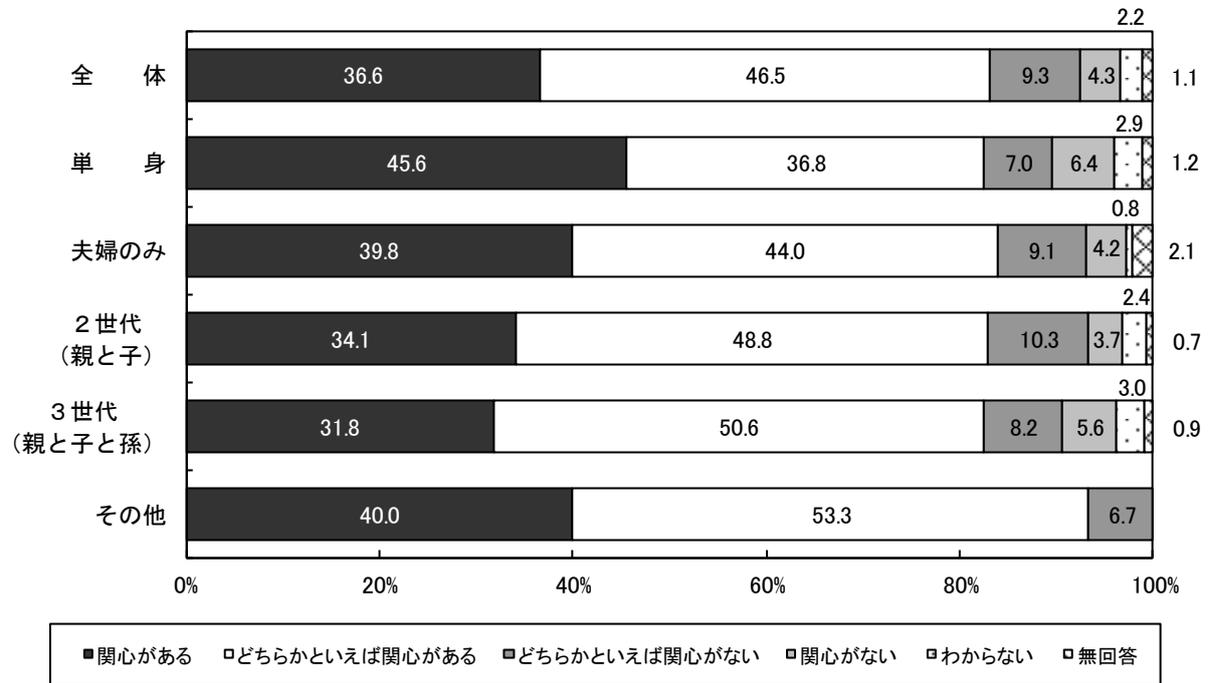
(人)

※無回答者のグラフは省略した。

## 【家族構成別】

「関心がある」「どちらかといえば関心がある」と回答した人の割合は、夫婦のみ（83.9%）で最も高くなっている。

図 2.1-6 「食育」への関心度（家族構成別）



全体	単身	夫婦のみ	2世代 (親と子)	3世代 (親と子と孫)	その他	無回答
1,565	171	384	737	233	15	25

(人)

※無回答者のグラフは省略した。

## (2) 「食育」の実践度

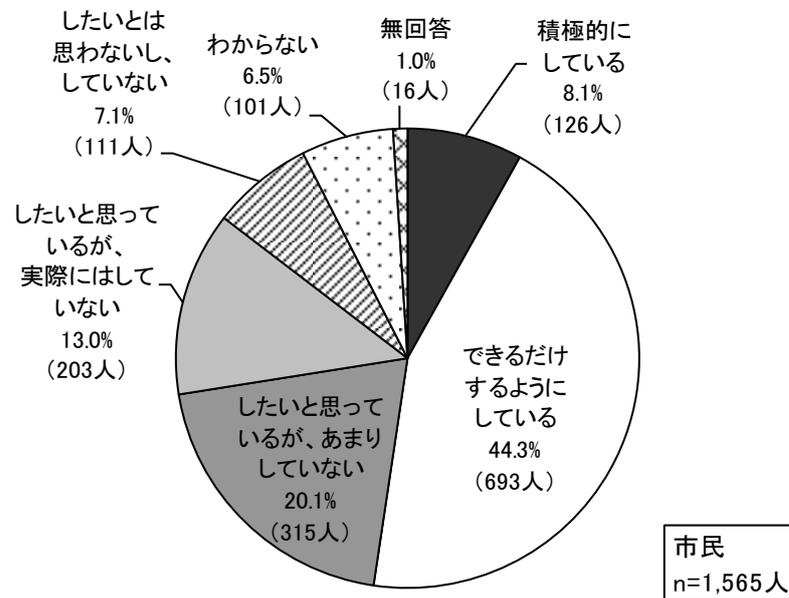
問8 あなたは、日ごろ、「食育」を何らかの形で実践していますか。(〇は1つだけ)

過半数が「積極的にしている」「できるだけするようにしている」と回答

## 【全体結果】

「積極的にしている」(8.1%)、「できるだけするようにしている」(44.3%)と回答した人を合わせた割合は過半数(52.3%)となっている。「したいと思っているが、あまりしていない」(20.1%)、「したいと思っているが、実際にはしていない」(13.0%)と回答した人を合わせた割合が3割強(33.1%)で、「したいとは思わないし、していない」(7.1%)と回答した人は1割弱(7.1%)となっている。

図 2.2-1 「食育」の実践度



【性別・年齢別】

「積極的にしている」「できるだけするようにしている」と回答した人の割合は、70歳以上で高く6割を超えている。また、各年代とも、女性の方が男性よりも実践度が高くなっている。

図 2.2-2 「食育」の実践度（年齢別・全体）

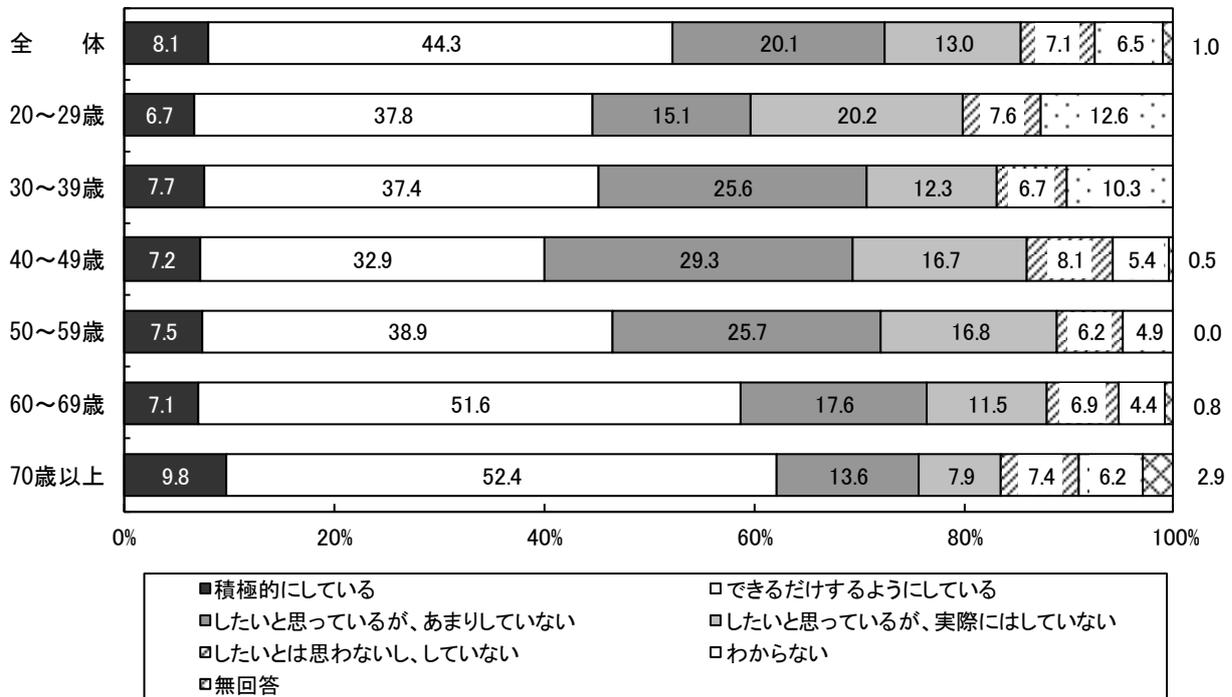
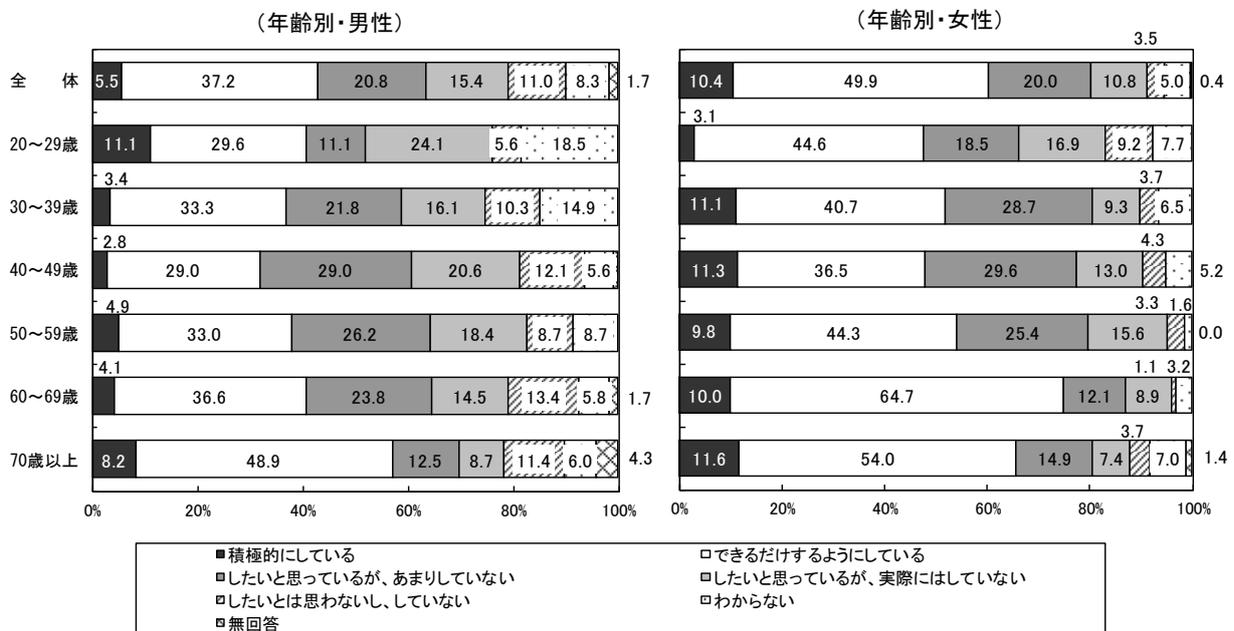


図 2.2-3 「食育」の実践度



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,565	119	195	222	226	364	420	19
男性	707	54	87	107	103	172	184	0
女性	817	65	108	115	122	190	215	2

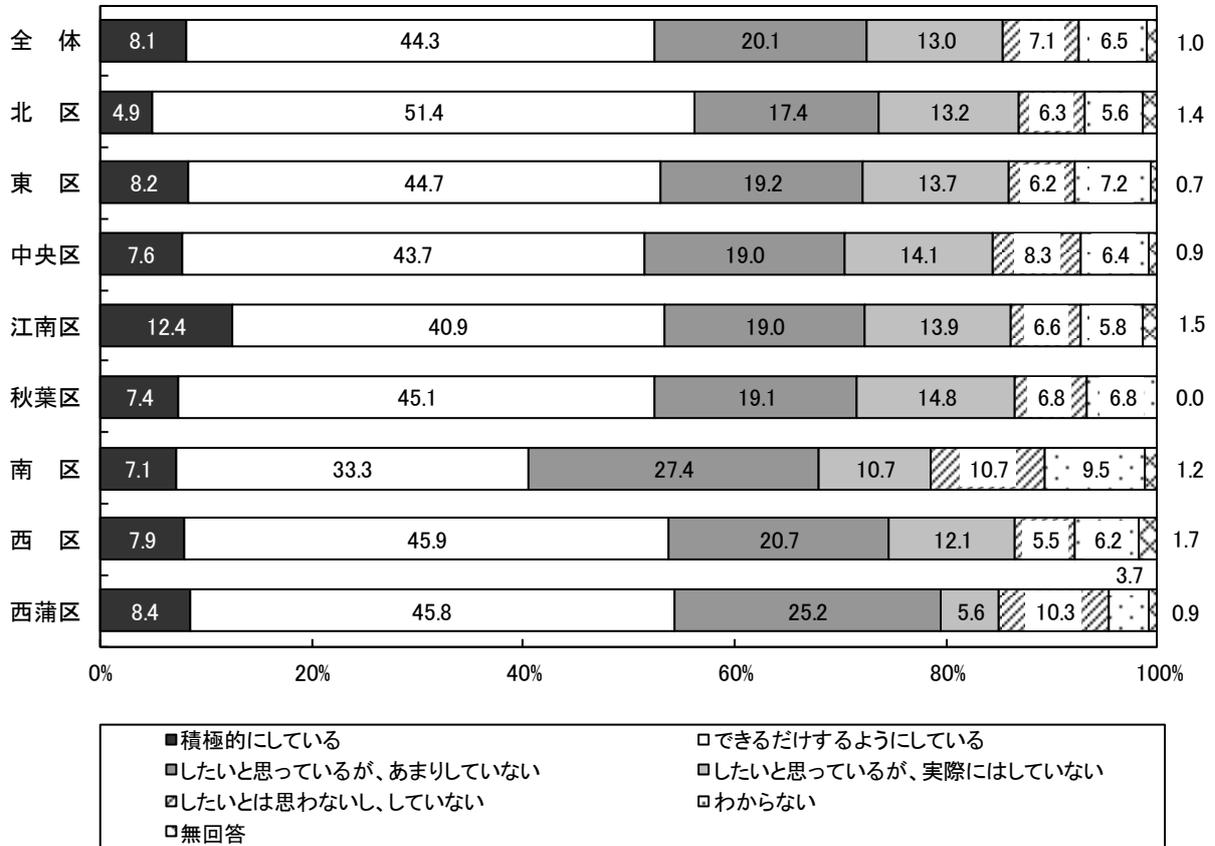
(人)

※性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

## 【地区別】

「積極的にしている」「できるだけするようにしている」と回答した人の割合は、北区（56.3%）で最も高くなっている。南区（40.5%）では他の地区に比べ低くなっている。

図 2.2-4 「食育」の実践度（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,565	144	291	327	137	162	84	290	107	23

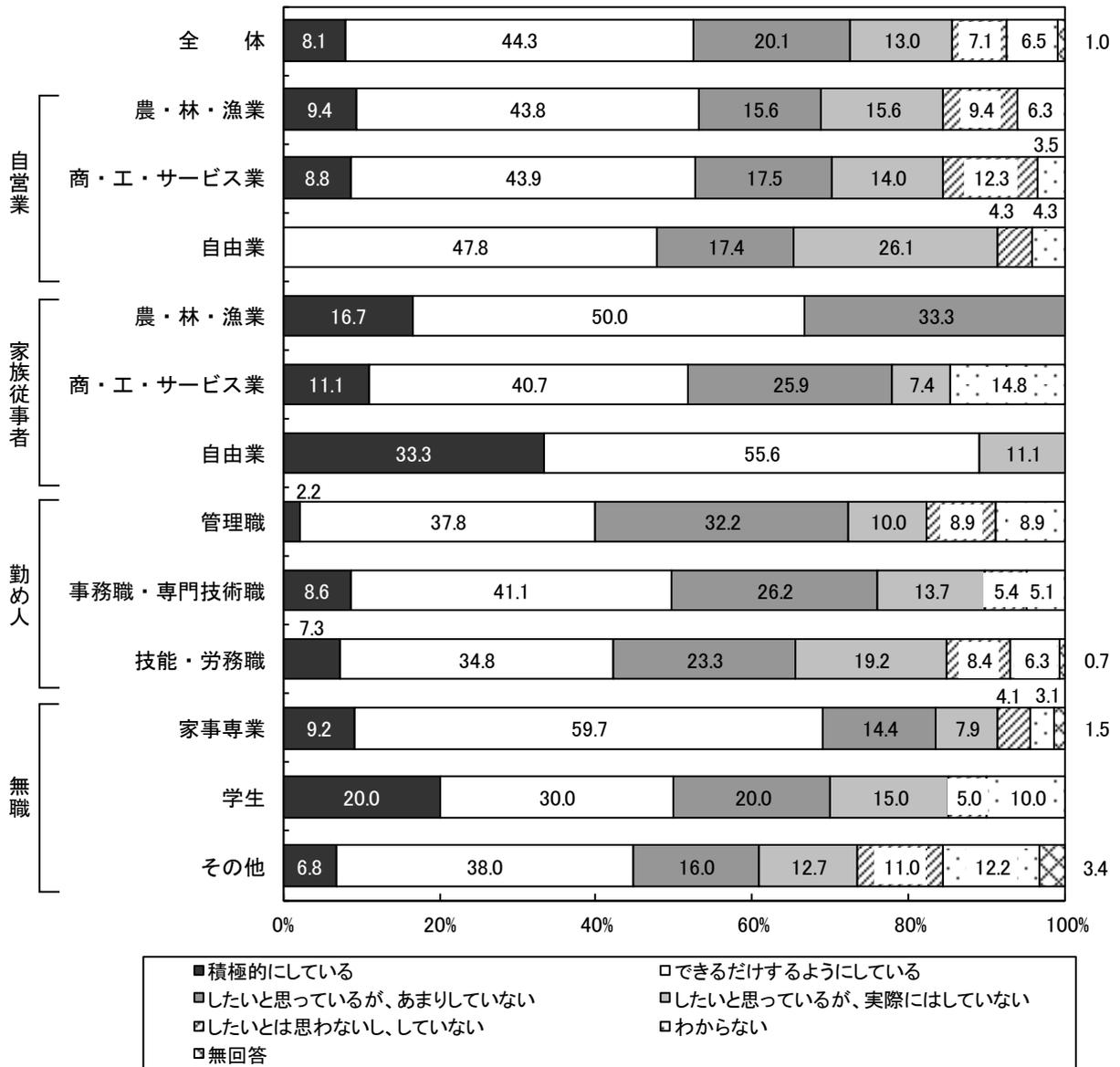
(人)

※地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 2.2-5 「食育」の実践度（職業別）



全体	自営業			家族従事者		
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業
1,565	32	57	23	6	27	9

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
90	336	287	390	20	237	51

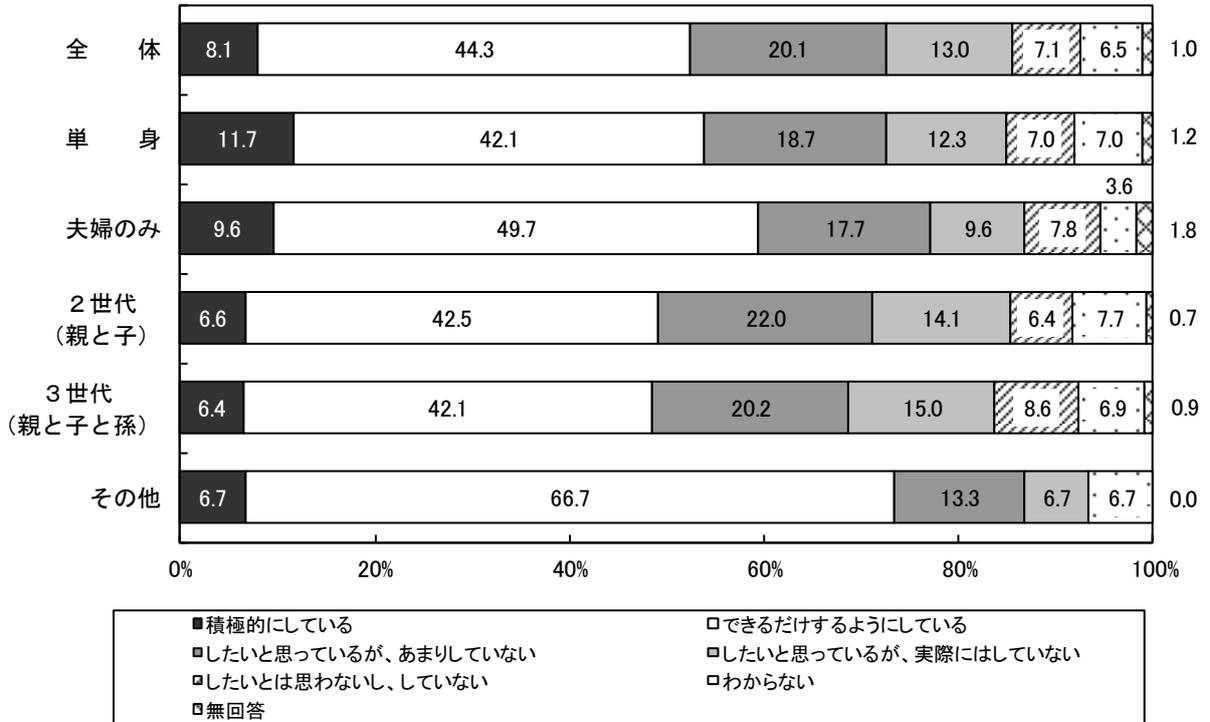
(人)

※無回答者のグラフは省略した。

【家族構成別】

「積極的にしている」「できるだけするようにしている」と回答した人の割合は、夫婦のみ（59.4%）で最も高くなっている。一方、「したいと思っているが、あまりしていない」「したいと思っているが、実際にはしていない」と回答した人の割合は、2世代（36.1%）、3世代（35.2%）でやや高くなっている。

図 2.2-6 「食育」の実践度（家族構成別）



全体	単身	夫婦のみ	2世代（親と子）	3世代（親と子と孫）	その他	無回答
1,565	171	384	737	233	15	25

(人)

※無回答者のグラフは省略した。

## (3) 食育を実践していない理由

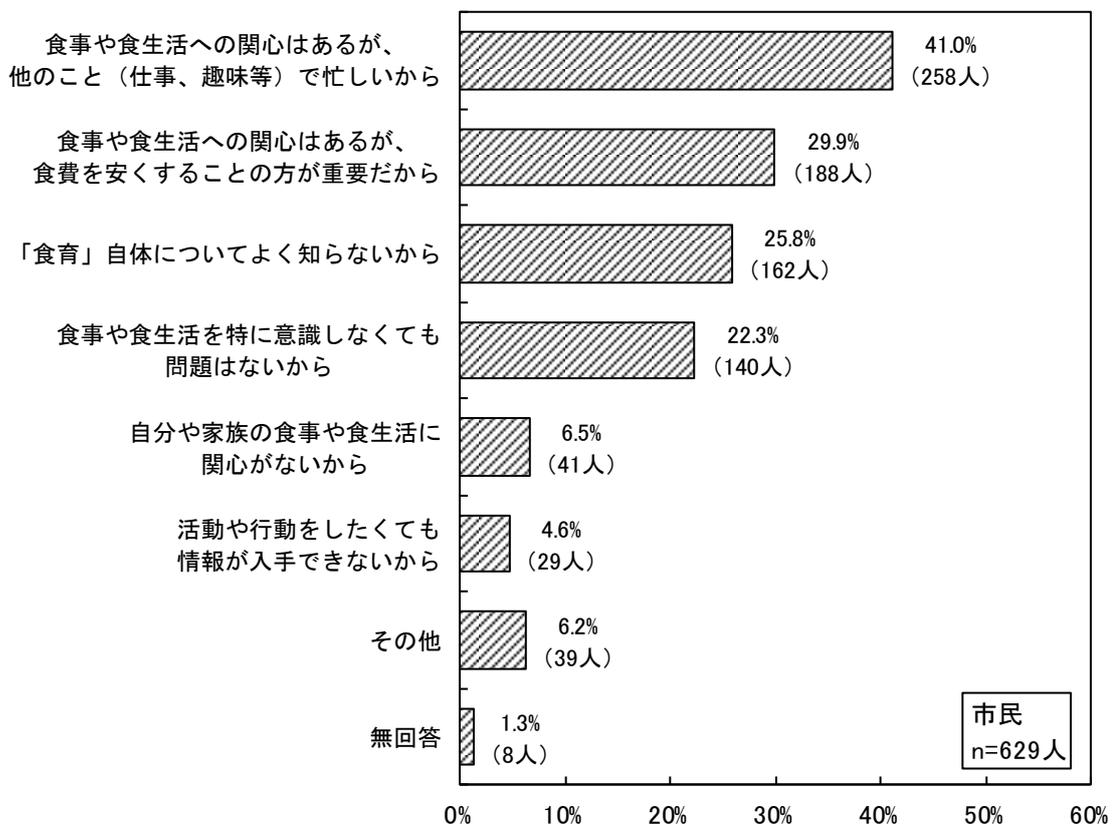
問8-1 あなたが「食育」を実践していない理由は何ですか。(〇は3つまで)

「食事や食生活への関心はあるが、他のこと（仕事、趣味等）で忙しいから」が4割以上

## 【全体結果】

食育を実践していない理由については、「食事や食生活への関心はあるが、他のこと（仕事、趣味等）で忙しいから」（41.0%）と回答した人が最も多く、以下「食事や食生活への関心はあるが、食費を安くすることの方が重要だから」（29.9%）、「『食育』自体についてよく知らないから」（25.8%）、「食事や食生活を特に意識しなくても問題はないから」（22.3%）と続いている。

図 2.3-1 食育を実践していない理由



## 【性別・年齢別】

70歳以上を除いた年代で、「食事や食生活への関心はあるが、他のこと（仕事、趣味等）で忙しいから」と回答した人の割合が最も高くなっている。70歳以上では「食事や食生活を特に意識しなくても問題はないから」（38.8%）と回答した人が最も多くなっている。

表 1.1 食育を実践していない理由（年齢別・全体）

	対象者	食事や食生活への関心はあるが、他のこと（仕事、趣味等）で忙しいから	食事や食生活への関心はあるが、食費を安くすることの方が重要だから	「食育」自体についてよく知らないから	食事や食生活を特に意識しなくても問題はないから	自分や家族の食事や食生活に関心がないから	活動や行動をしたくても情報が入手できないから	その他	無回答
計	629	41.0	29.9	25.8	22.3	6.5	4.6	6.2	1.3
20～29歳	51	68.6	25.5	25.5	9.8	5.9	9.8	7.8	0.0
30～39歳	87	57.5	46.0	32.2	3.4	5.7	5.7	1.1	0.0
40～49歳	120	55.8	33.3	20.8	16.7	4.2	1.7	3.3	1.7
50～59歳	110	43.6	35.5	23.6	20.0	5.5	2.7	6.4	0.0
60～69歳	131	29.0	27.5	25.2	30.5	7.6	6.9	5.3	0.8
70歳以上	121	13.2	13.2	28.9	38.8	9.1	4.1	11.6	4.1
年齢不明	9	44.4	44.4	22.2	33.3	11.1	0.0	22.2	0.0

対象者：人/回答：%

表 1.2 食育を実践していない理由（年齢別・男性）

	対象者	食事や食生活への関心はあるが、他のこと（仕事、趣味等）で忙しいから	食事や食生活への関心はあるが、食費を安くすることの方が重要だから	「食育」自体についてよく知らないから	食事や食生活を特に意識しなくても問題はないから	自分や家族の食事や食生活に関心がないから	活動や行動をしたくても情報が入手できないから	その他	無回答
計	334	35.0	24.6	29.6	26.9	8.7	4.8	4.5	0.9
20～29歳	22	68.2	18.2	18.2	18.2	0.0	4.5	4.5	0.0
30～39歳	42	57.1	52.4	33.3	4.8	9.5	7.1	0.0	0.0
40～49歳	66	48.5	25.8	22.7	24.2	6.1	1.5	3.0	1.5
50～59歳	55	32.7	29.1	29.1	25.5	7.3	3.6	5.5	0.0
60～69歳	89	27.0	19.1	29.2	30.3	10.1	7.9	4.5	1.1
70歳以上	60	6.7	10.0	40.0	45.0	13.3	3.3	8.3	1.7
年齢不明	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

対象者：人/回答：%

表 1.3 食育を実践していない理由（年齢別・女性）

	対象者	食事や食生活への関心はあるが、他のこと（仕事、趣味等）で忙しいから	食事や食生活への関心はあるが、食費を安くすることの方が重要だから	「食育」自体についてよく知らないから	食事や食生活を特に意識しなくても問題はないから	自分や家族の食事や食生活に関心がないから	活動や行動をしたくても情報が入手できないから	その他	無回答
計	280	48.9	36.1	21.8	15.4	3.9	4.6	7.5	1.8
20～29歳	29	69.0	31.0	31.0	3.4	10.3	13.8	10.3	0.0
30～39歳	45	57.8	40.0	31.1	2.2	2.2	4.4	2.2	0.0
40～49歳	54	64.8	42.6	18.5	7.4	1.9	1.9	3.7	1.9
50～59歳	54	55.6	42.6	18.5	13.0	3.7	1.9	7.4	0.0
60～69歳	42	33.3	45.2	16.7	31.0	2.4	4.8	7.1	0.0
70歳以上	56	21.4	16.1	19.6	30.4	5.4	5.4	14.3	7.1
年齢不明	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

対象者：人/回答：%

## (4) 食べ物を無駄にしないための行動

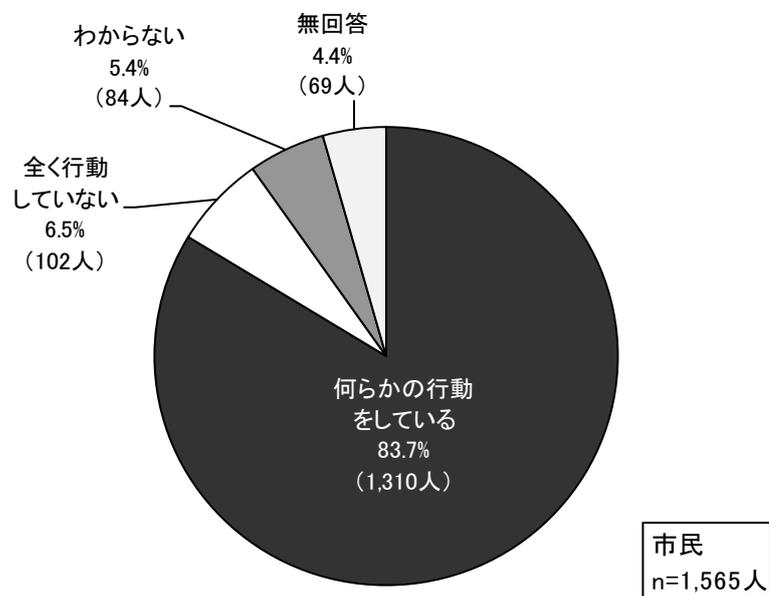
問9 食べ物を無駄にしないように、あなたは何らかの行動をしていますか。  
(食材を買いすぎない、作りすぎない、残さず食べる、冷凍保存を活用する、賞味期限を過ぎてもすぐに捨てずに自分で食べられるか判断するなど) (〇は1つだけ)

8割強が「何らかの行動をしている」と回答

## 【全体結果】

「何らかの行動をしている」と回答した人の割合は8割強(83.7%)となっている。「全く行動していない」と回答した人の割合は1割弱(6.5%)となっている。

図 2.4-1 食べ物を無駄にしないための行動



## 【性別・年齢別】

「何らかの行動をしている」と回答した人の割合は、50歳代で最も高くなり、その後年齢が上がるにつれて低くなる傾向が見られる。また、各年代とも、女性の方が男性よりも実践度が高くなっている。

図 2.4-2 食べ物を無駄にしないための行動（年齢別・全体）

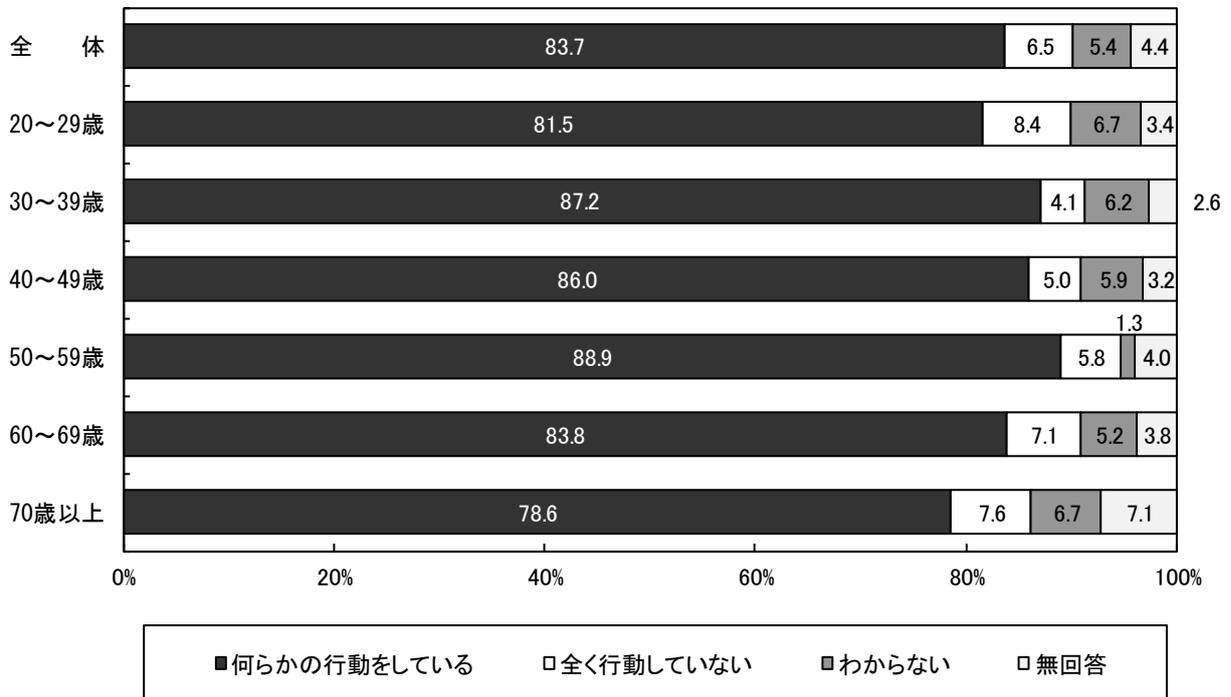
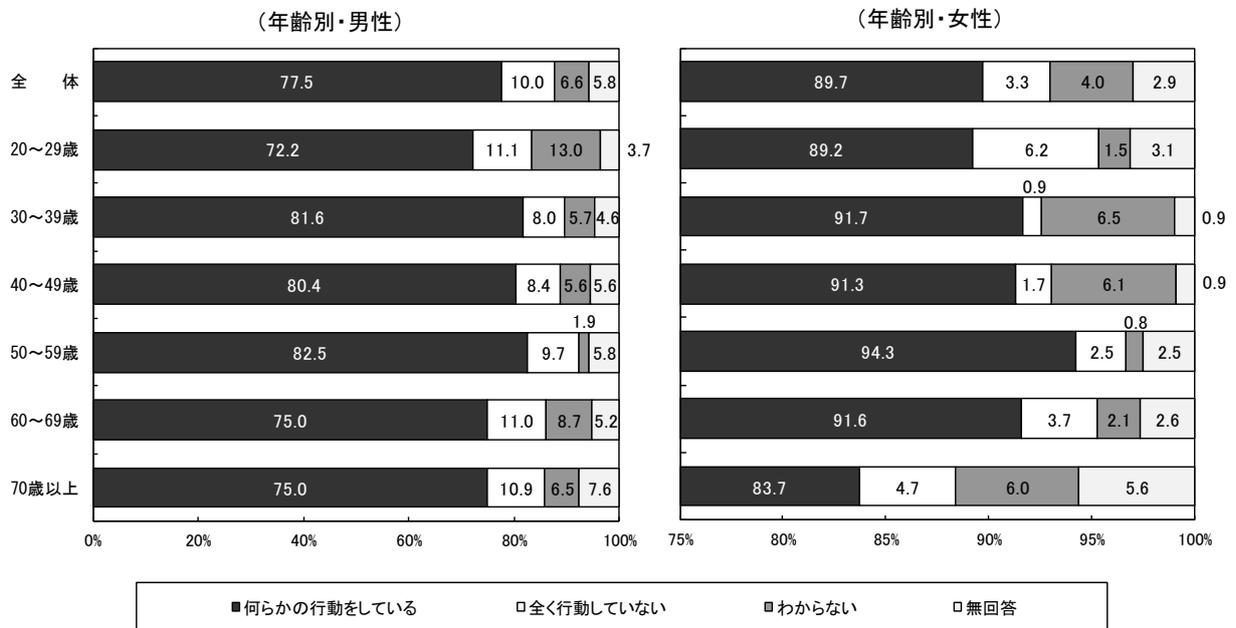


図 2.4-3 食べ物を無駄にしないための行動



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,565	119	195	222	226	364	420	19
男性	707	54	87	107	103	172	184	0
女性	817	65	108	115	122	190	215	2

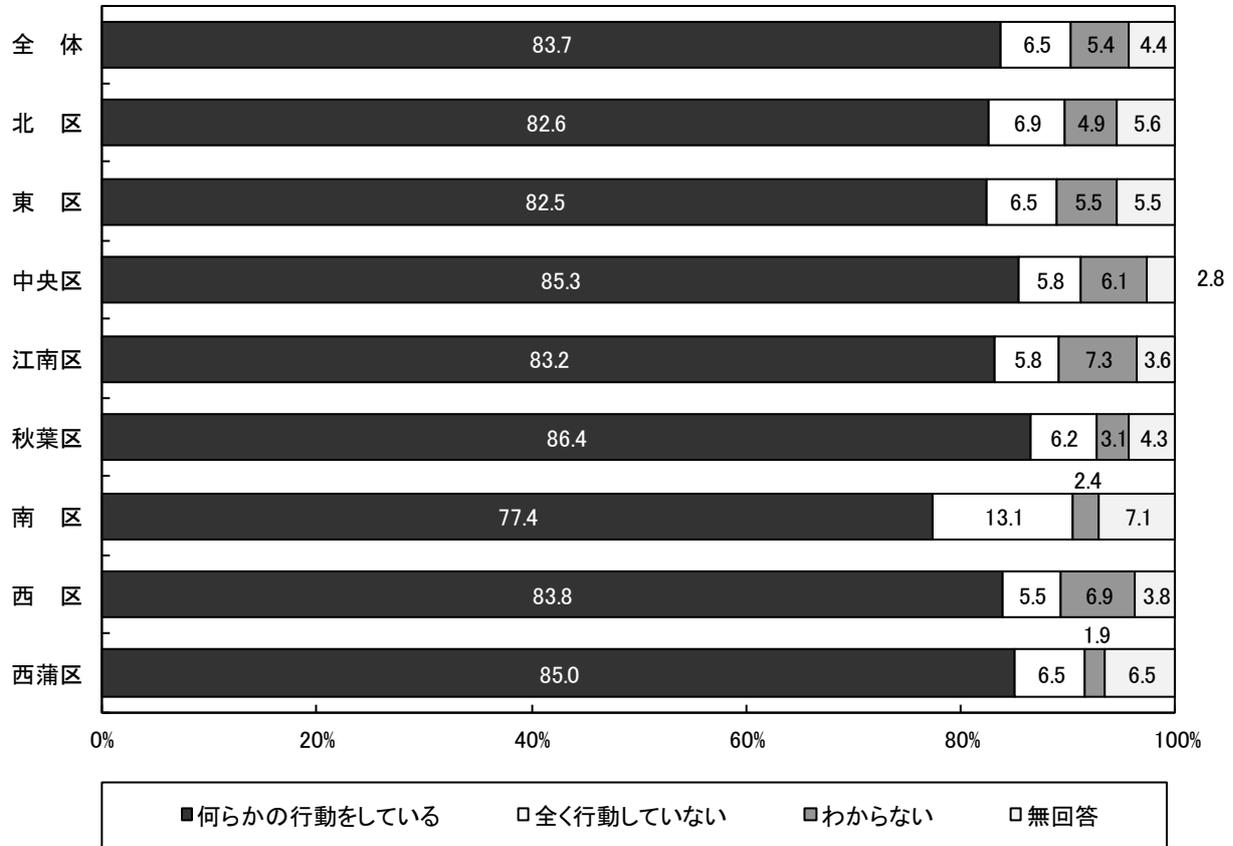
(人)

※性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

## 【地区別】

「何らかの行動をしている」と回答した人の割合は、秋葉区（86.4%）で最も高く、9割弱となっている。南区（77.4%）では他の地区に比べ低くなっている。

図 2.4-4 食べ物を無駄にしないための行動（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,565	144	291	327	137	162	84	290	107	23

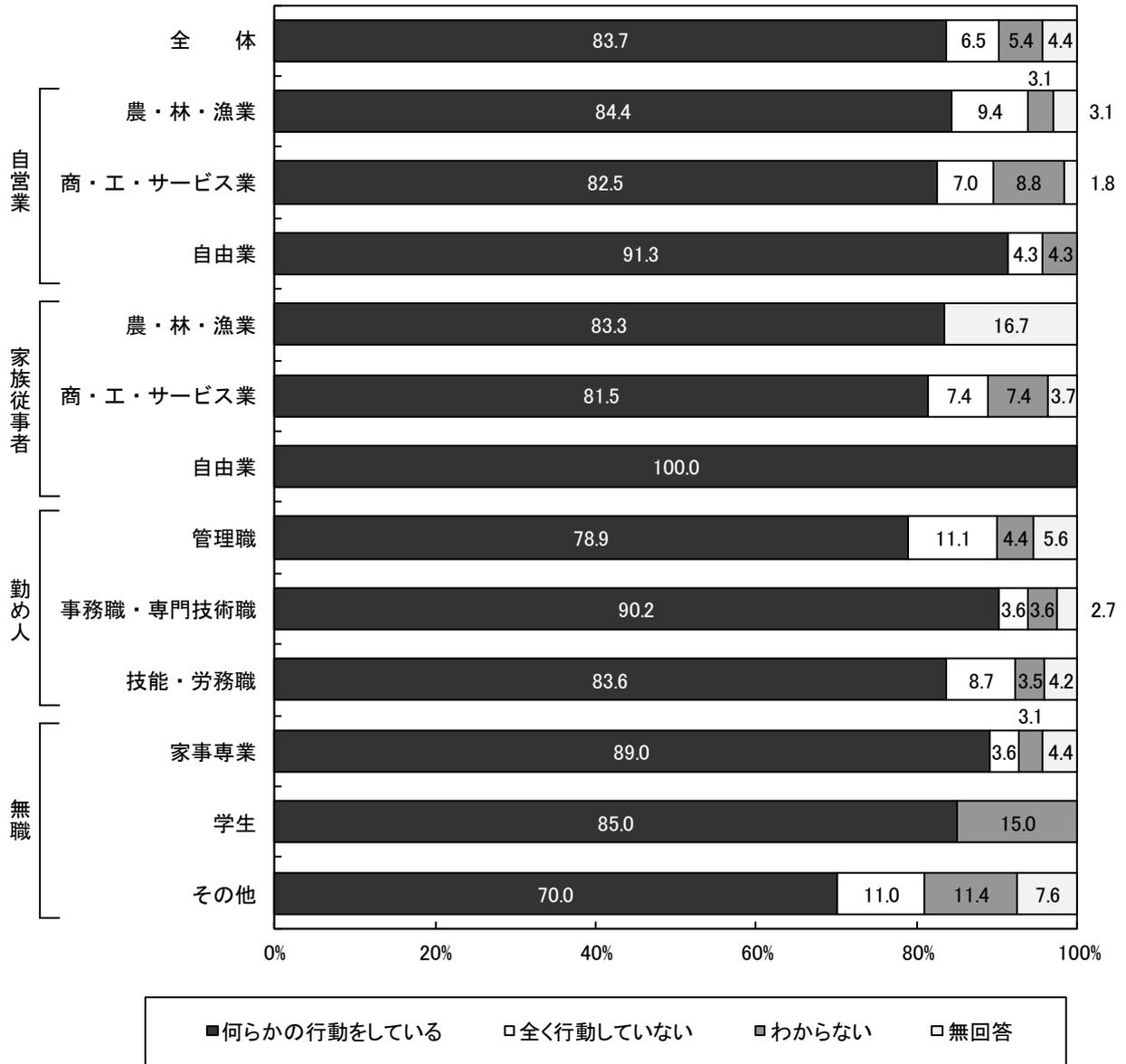
(人)

※地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 2.4-5 食べ物を無駄にしないための行動（職業別）



全体	自営業			家族従事者		
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業
1,565	32	57	23	6	27	9

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
90	336	287	390	20	237	51

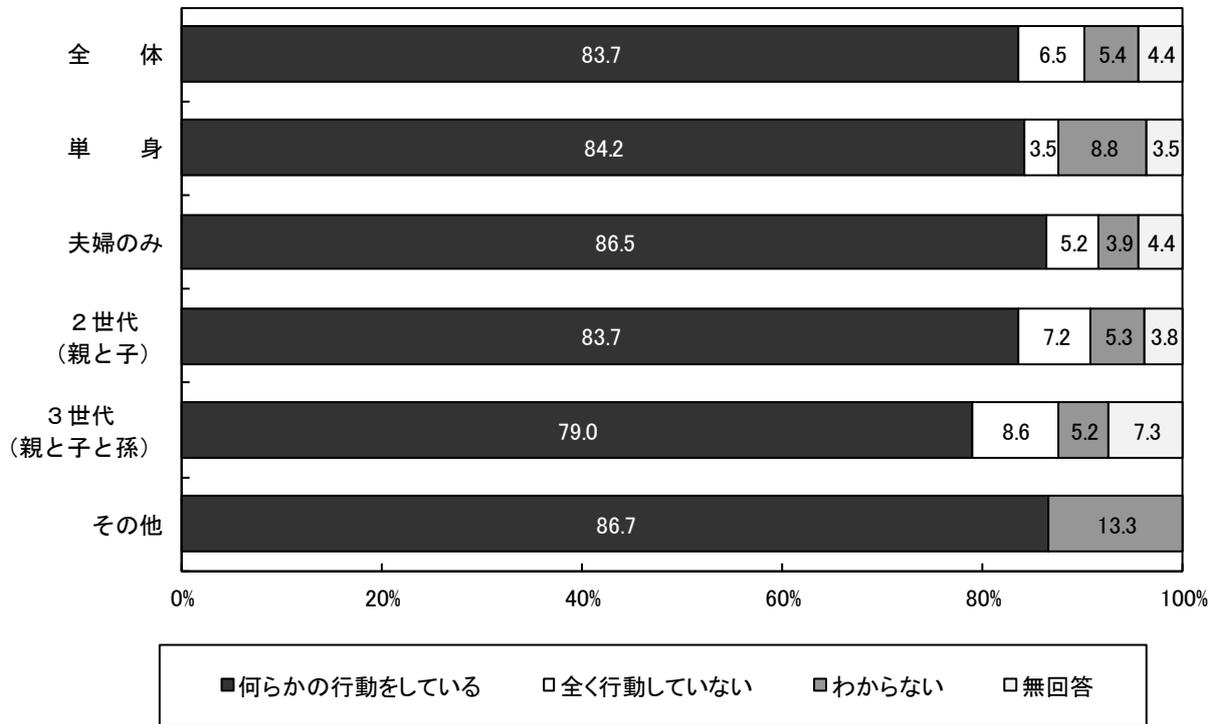
(人)

※無回答者のグラフは省略した。

## 【家族構成別】

各家族構成ともに、「何らかの行動をしている」と回答した人の割合が最も高くなっている。

図 2.4-6 食べ物を無駄にしないための行動（家族構成別）



全体	単身	夫婦のみ	2世代 (親と子)	3世代 (親と子と孫)	その他	無回答
1,565	171	384	737	233	15	25

(人)

※無回答者のグラフは省略した。

## (5) 伝統的な料理や作法の大切さ

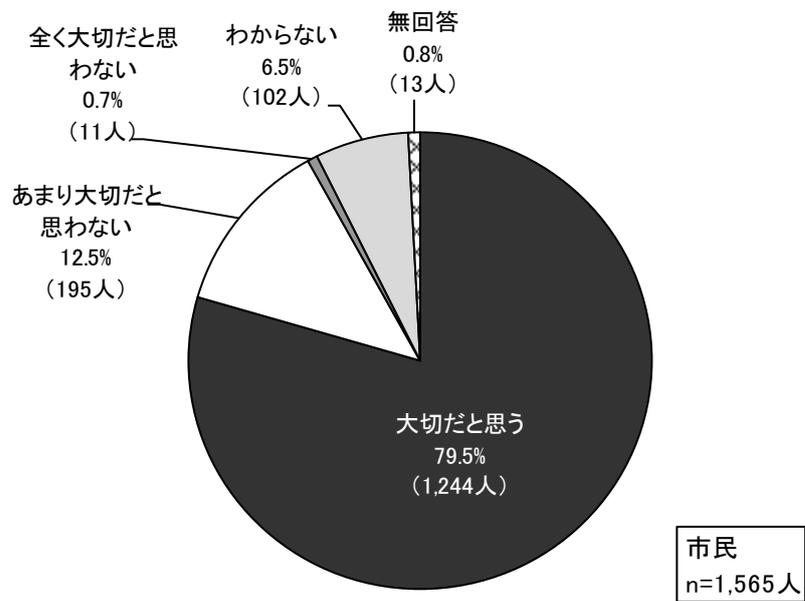
問10 地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法が大切だと思いますか。(○は1つだけ)

約8割が「大切だと思う」と回答

## 【全体結果】

「大切だと思う」と回答した人の割合は約8割(79.5%)となっている。「あまり大切だと思わない」(12.5%)、「全く大切だと思わない」(0.7%)と回答した人を合わせた割合が1割強(13.2%)となっている。

図 2.5-1 伝統的な料理や作法の大切さ



【性別・年齢別】

「大切だと思う」と回答した人の割合は、50歳代（84.5%）で最も高くなり、その後年齢が上がるにつれて低くなる傾向が見られる。また、各年代とも、女性の方が男性よりも実践度が高くなっている

図 2.5-2 伝統的な料理や作法の大切さ（年齢別・全体）

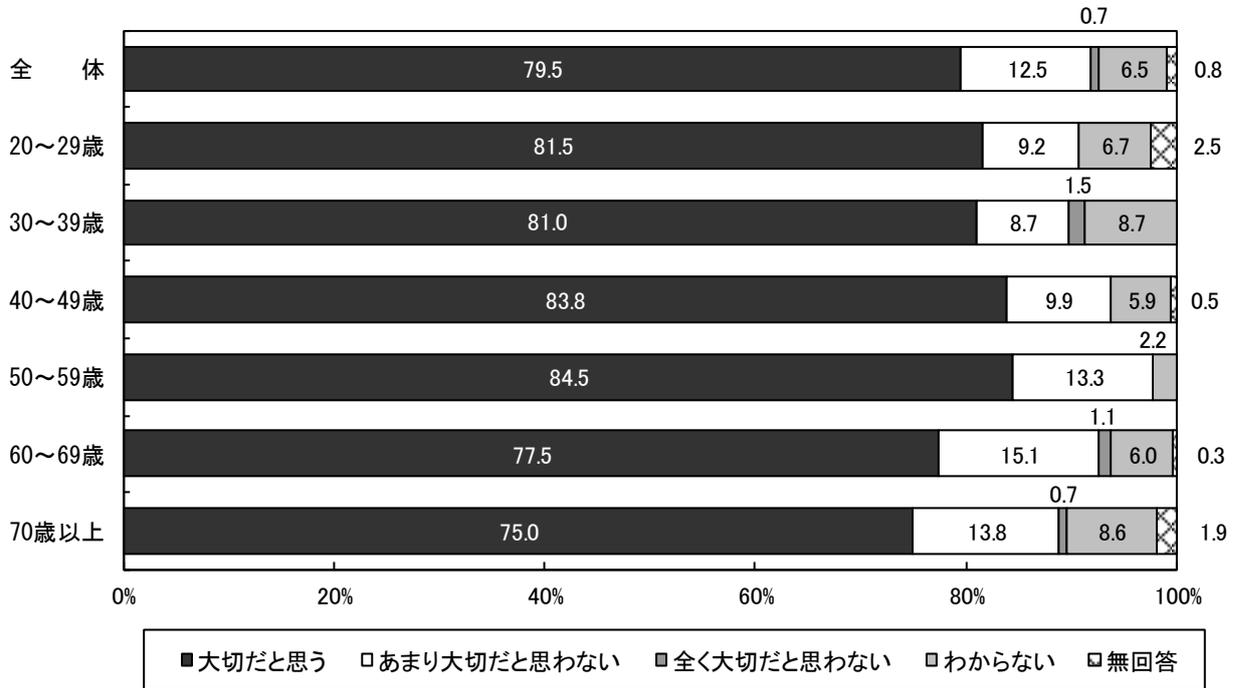
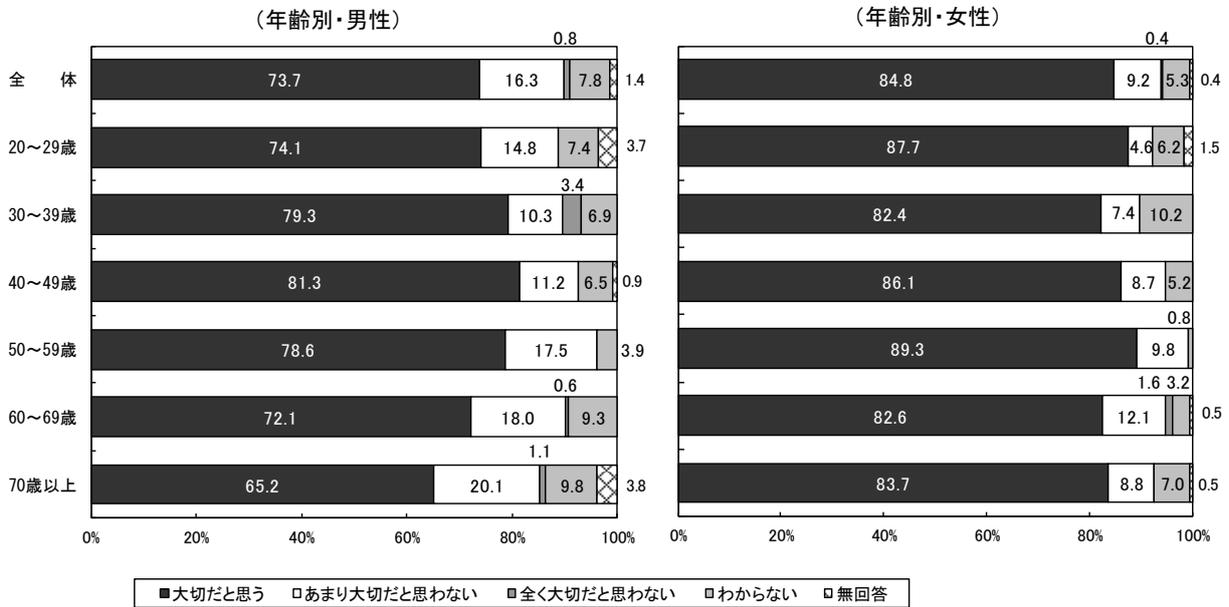


図 2.5-3 伝統的な料理や作法の大切さ



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,565	119	195	222	226	364	420	19
男性	707	54	87	107	103	172	184	0
女性	817	65	108	115	122	190	215	2

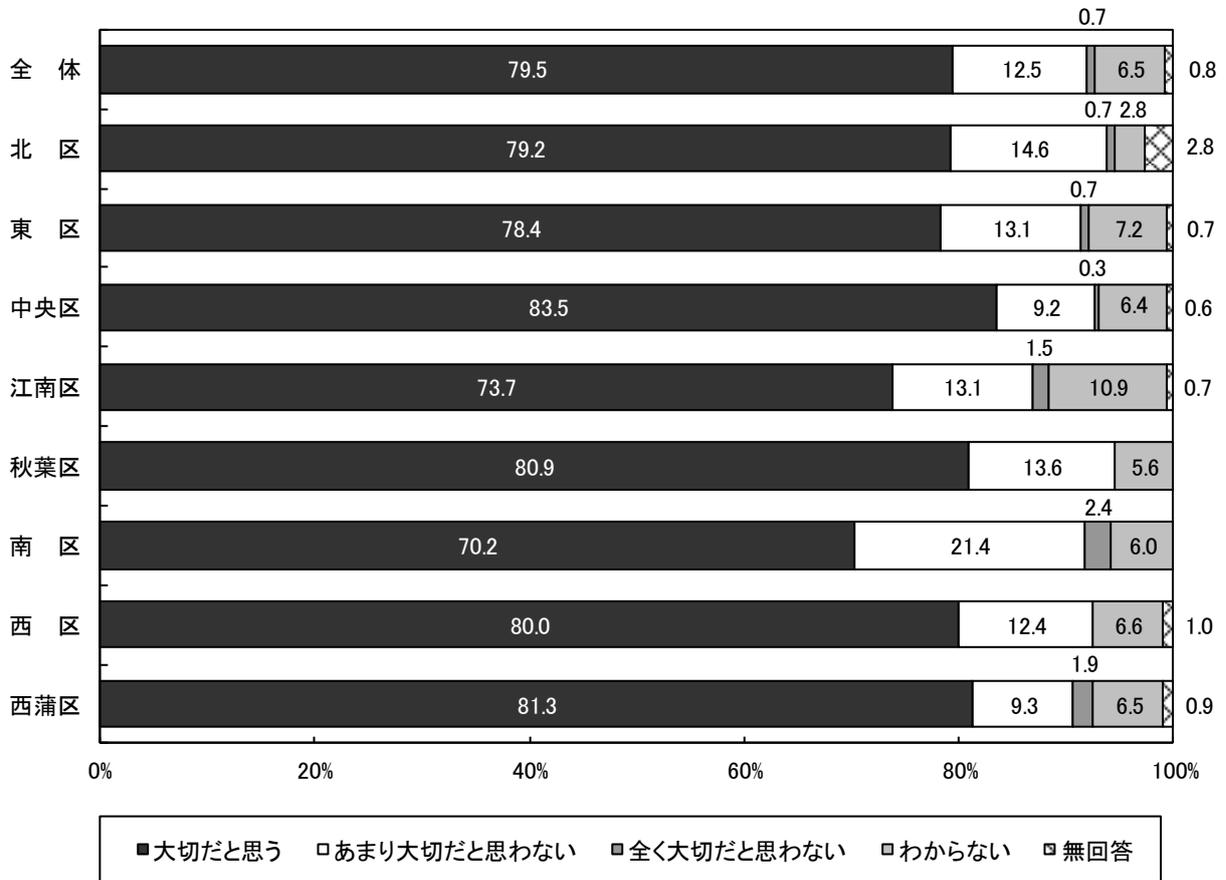
(人)

※性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

「大切だと思う」と回答した人の割合は、中央区（83.5%）で最も高く、8割強となっている。南区（70.2%）では他の地区に比べ低くなっている。

図 2.5-4 伝統的な料理や作法の大切さ（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,565	144	291	327	137	162	84	290	107	23

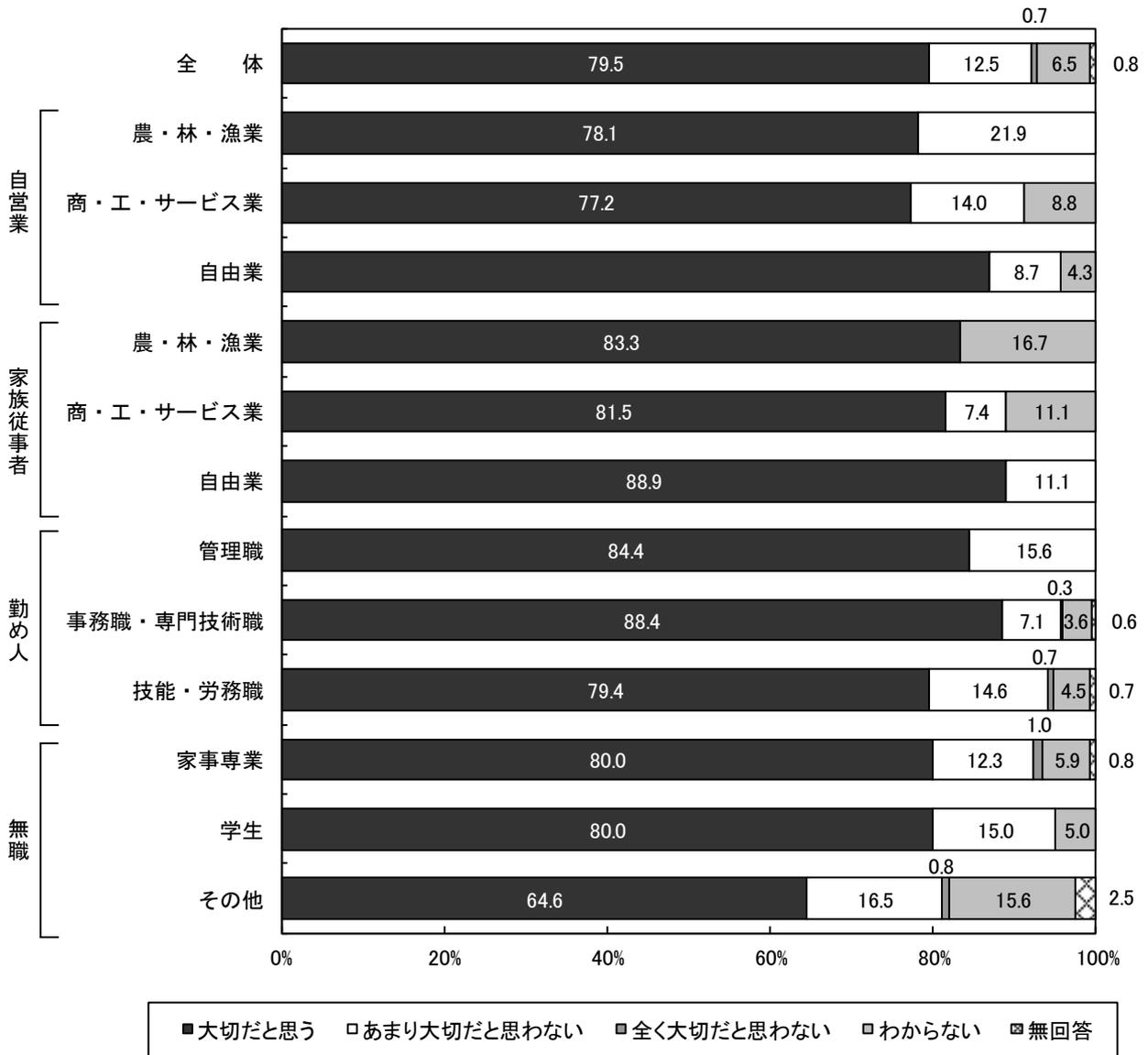
(人)

※地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 2.5-5 伝統的な料理や作法の大切さ（職業別）



全体	自営業			家族従事者		
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業
1,565	32	57	23	6	27	9

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
90	336	287	390	20	237	51

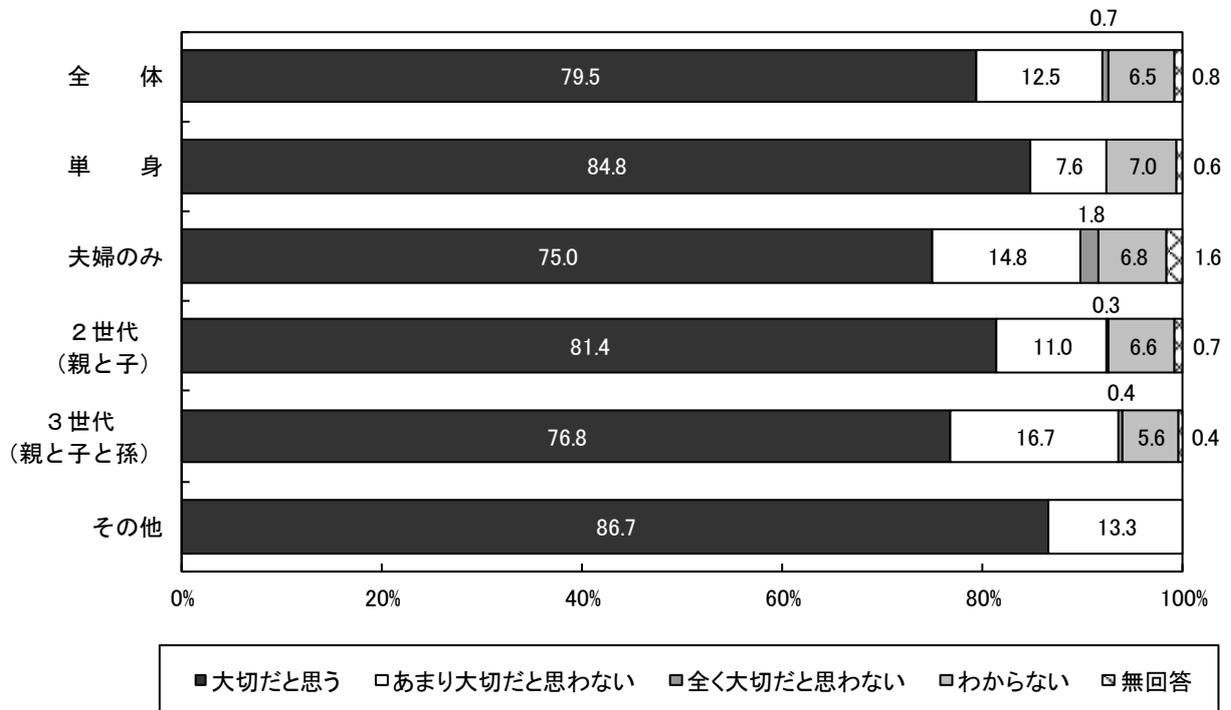
(人)

※無回答者のグラフは省略した。

## 【家族構成別】

各家族構成ともに、「大切だと思う」と回答した人の割合が最も高くなっているが、夫婦のみ(75.0%)と3世代(親と子と孫)(76.8%)でやや低くなっている。

図 2.5-6 伝統的な料理や作法の大切さ(家族構成別)



全体	単身	夫婦のみ	2世代(親と子)	3世代(親と子と孫)	その他	無回答
1,565	171	384	737	233	15	25

(人)

※無回答者のグラフは省略した。

## (6) 地域や家庭で受け継がれてきた料理や食べ方・作法の継承

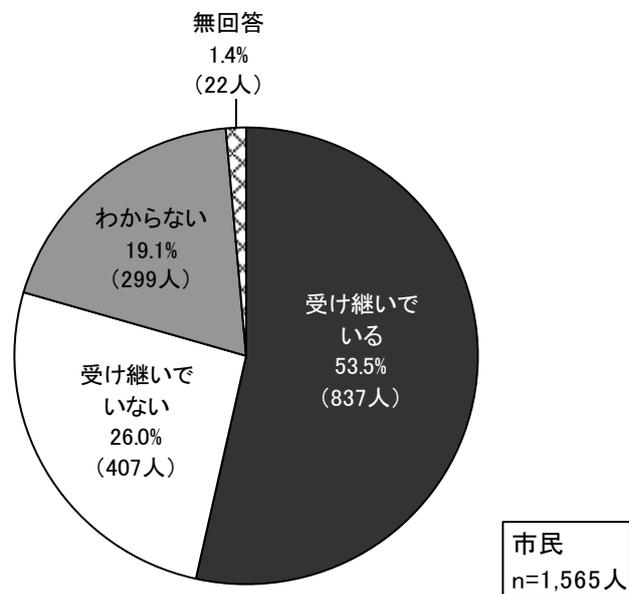
問11 あなたは、郷土料理や伝統料理など、地域や家庭で受け継がれてきた料理や味、箸づかいなどの食べ方・作法を受け継いでいますか。(〇は1つだけ)

過半数が「受け継いでいる」と回答

## 【全体結果】

「受け継いでいる」と回答した人の割合は過半数(53.5%)となっている。「受け継いでいない」と回答した人の割合が3割弱(26.0%)で、「わからない」と回答した人は2割弱(19.1%)となっている。

図 2.6-1 地域や家庭で受け継がれてきた料理や食べ方・作法の継承



## 【性別・年齢別】

「受け継いでいる」と回答した人の割合は、50歳代で最も多く、6割弱を占めている。一方、「受け継いでいない」は30歳代で3割強、「わからない」は20歳代で3割弱となっている。

また、各年代とも、女性の方が男性よりも「受け継いでいる」割合が高くなっており、女性は全ての年代で「受け継いでいる」が5割を上回っている。

図 2.6-2 地域や家庭で受け継がれてきた料理や食べ方・作法の継承（年齢別・全体）

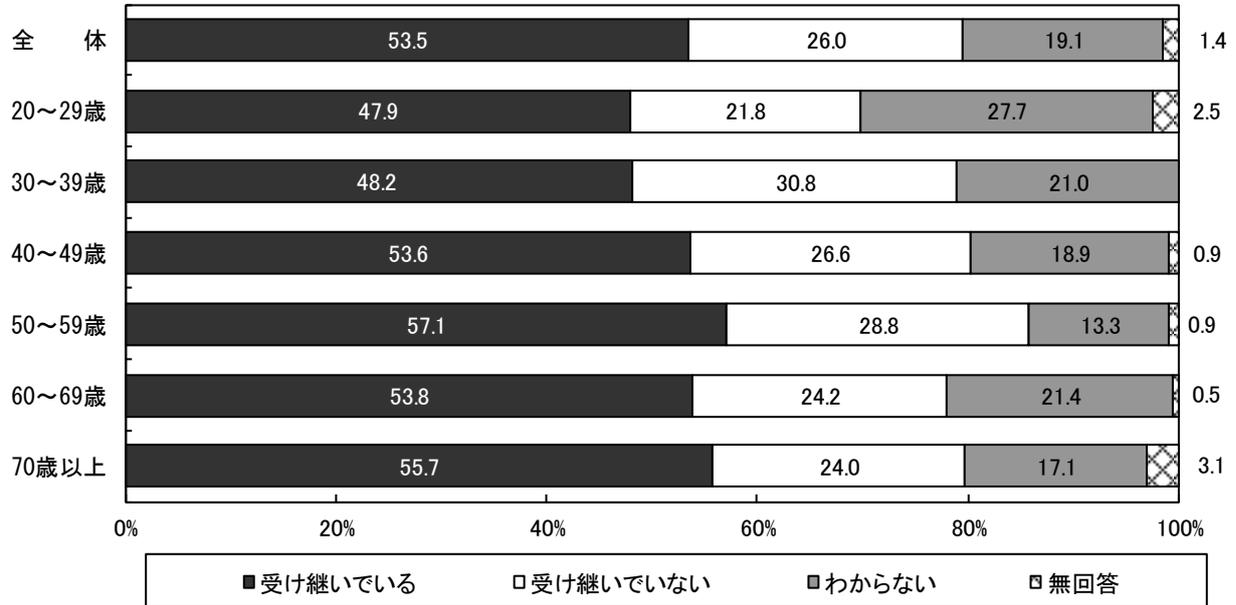
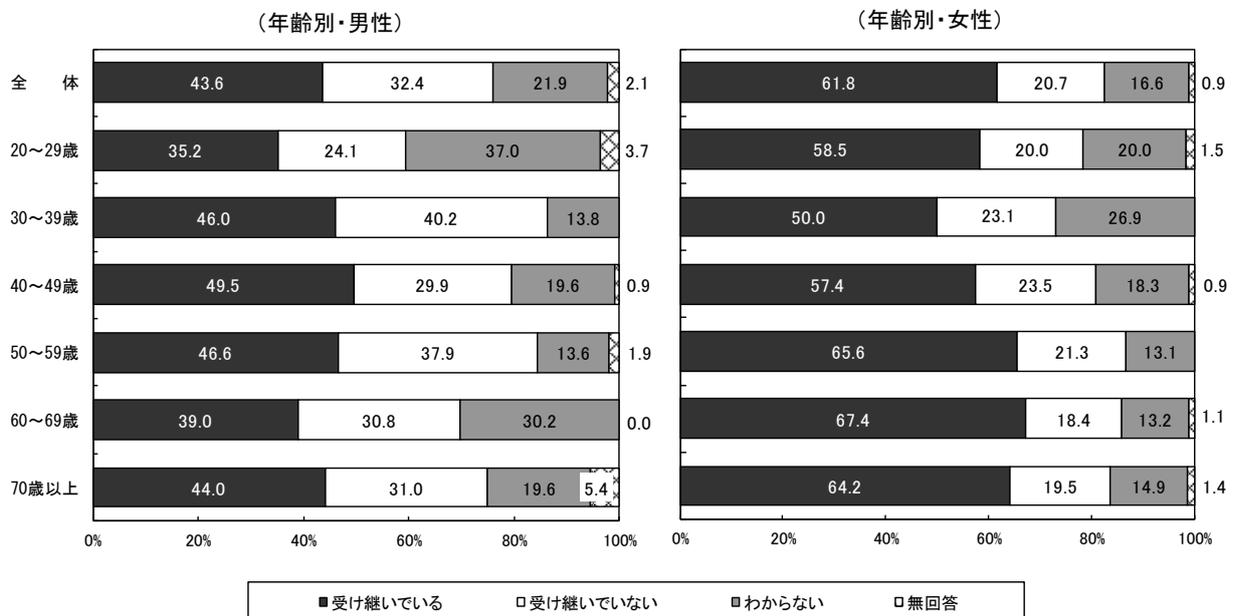


図 2.6-3 地域や家庭で受け継がれてきた料理や食べ方・作法の継承



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全体	1,565	119	195	222	226	364	420	19
男性	707	54	87	107	103	172	184	0
女性	817	65	108	115	122	190	215	2

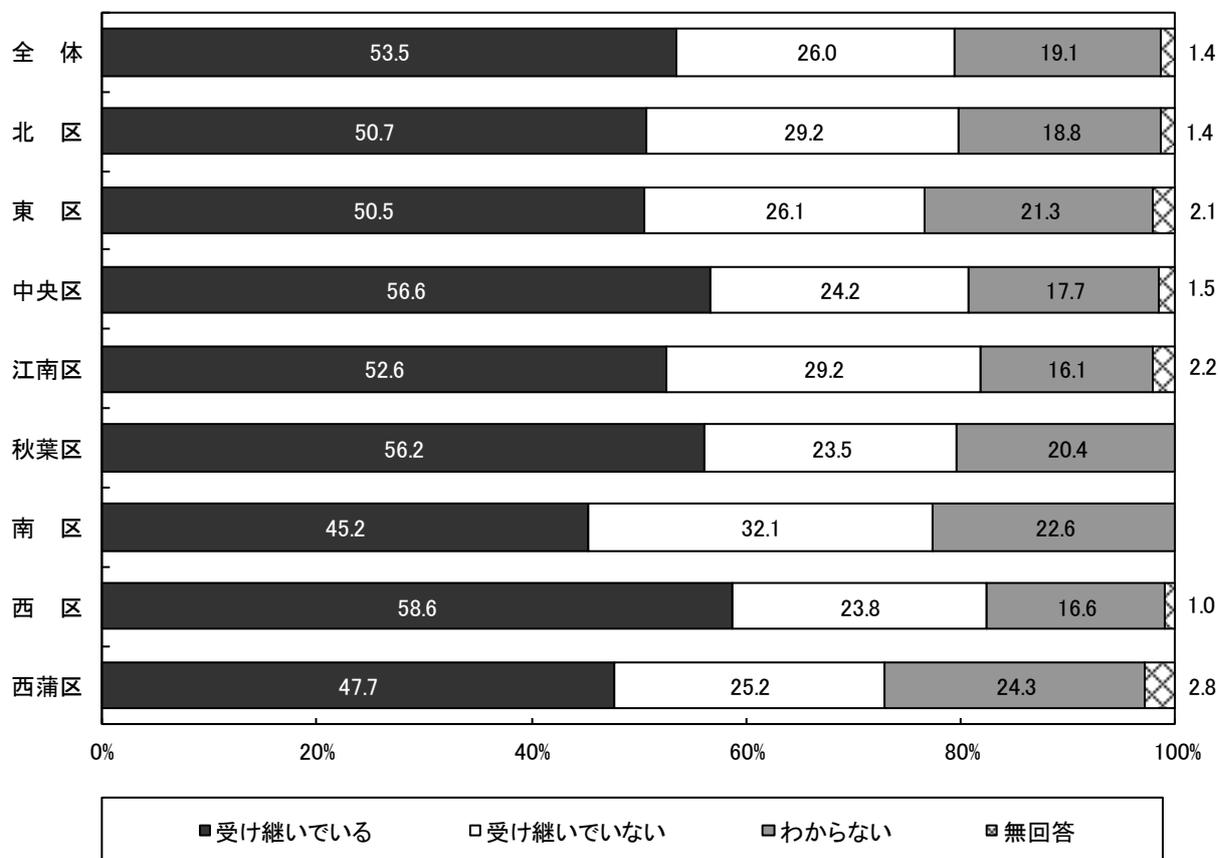
(人)

※性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

## 【地区別】

「受け継いでいる」と回答した人の割合は、西区（58.6%）で最も高く、6割弱となっている。南区（45.2%）、西蒲区（47.7%）では他の地区に比べ低くなっている。

図 2.6-4 地域や家庭で受け継がれてきた料理や食べ方・作法の継承（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
1,565	144	291	327	137	162	84	290	107	23

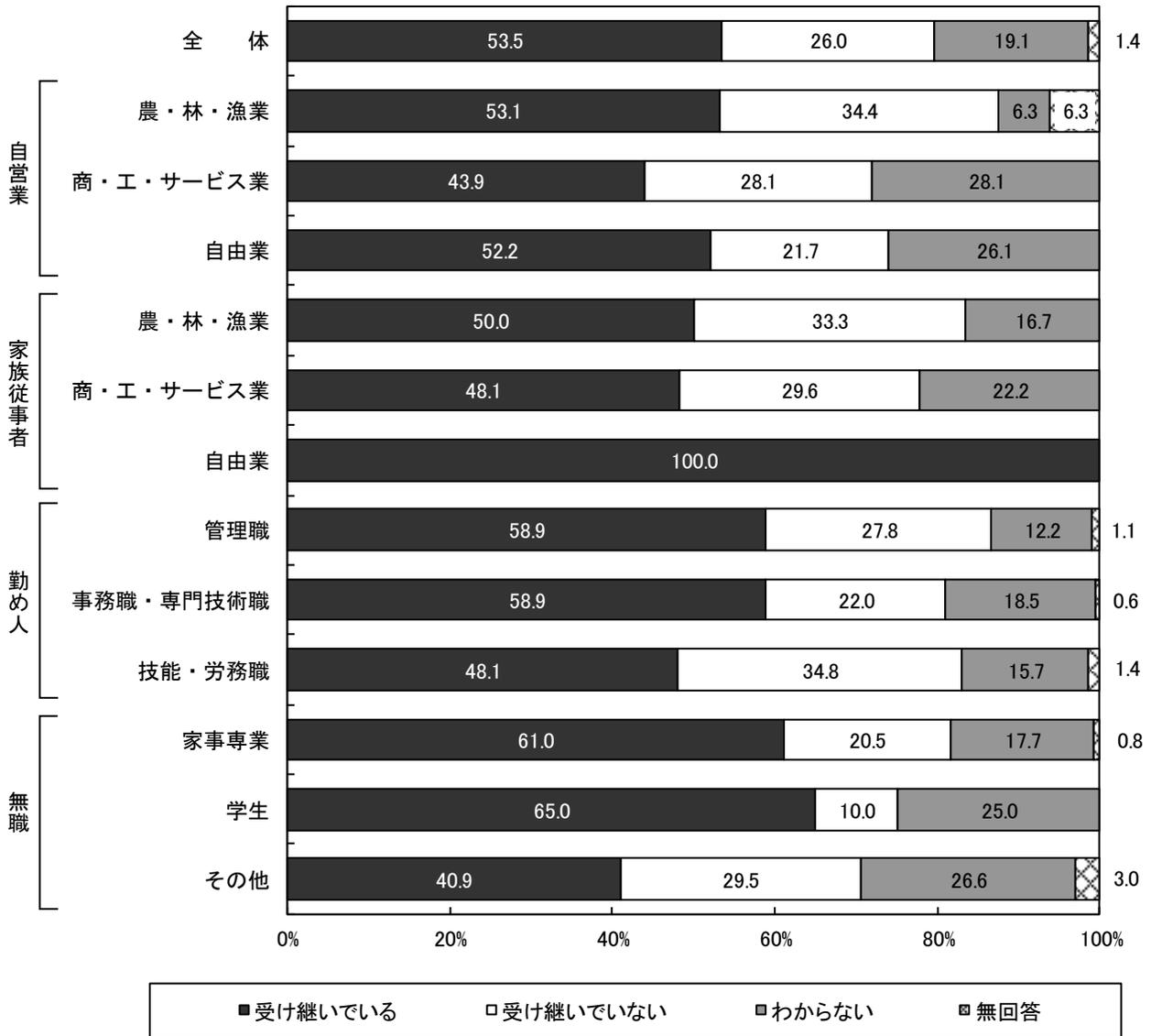
(人)

※地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 2.6-5 地域や家庭で受け継がれてきた料理や食べ方・作法の継承（職業別）



全体	自営業			家族従事者		
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業
1,565	32	57	23	6	27	9

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
90	336	287	390	20	237	51

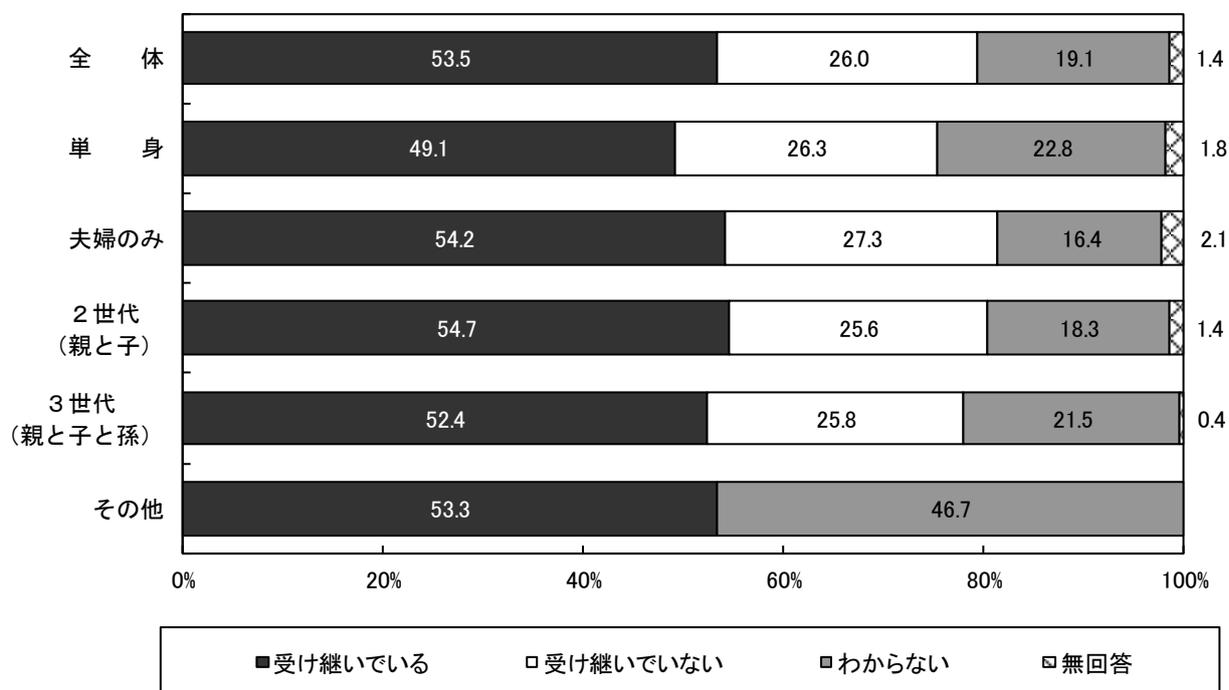
(人)

※無回答者のグラフは省略した。

## 【家族構成別】

「受け継いでいる」と回答した人の割合は、2世代（親と子）（54.7%）で最も高くなっている。一方、「わからない」と回答した人の割合は、その他（46.7%）で高くなっている。

図 2.6-6 地域や家庭で受け継がれてきた料理や食べ方・作法の継承（家族構成別）



全体	単身	夫婦のみ	2世代 (親と子)	3世代 (親と子と孫)	その他	無回答
1,565	171	384	737	233	15	25

(人)

※無回答者のグラフは省略した。

## (7) 地域や家庭で受け継がれてきた料理や食べ方・作法の次世代へ伝承

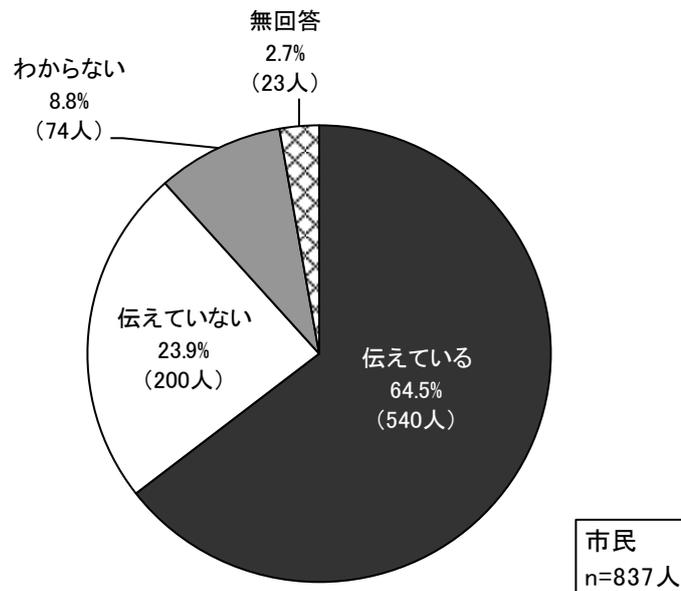
問11-1 あなたは、郷土料理や伝統料理など、地域や家庭で受け継がれてきた料理や味、箸づかいなどの食べ方・作法を地域や次世代（子どもや孫）に対して伝えていますか。（○は1つだけ）

6割強が「伝えている」と回答

## 【全体結果】

「伝えている」と回答した人の割合は6割強（64.5%）となっている。「伝えていない」と回答した人の割合が2割強（23.9%）で、「わからない」と回答した人は1割弱（8.8%）となっている。

図 2. 7-1 地域や家庭で受け継がれてきた料理や食べ方・作法の次世代へ伝承



【性別・年齢別】

「伝えている」と回答した人の割合は、40歳代と50歳代、70歳代で高く、70歳代（73.5%）で最も高くなっている。一方、「伝えていない」は20歳代（38.6%）で4割弱と、他の年代に比べて高くなっている。

性別では、「伝えている」と回答した人の割合は、60歳代で男性の方が女性よりも高く、それ以外の年代では、女性の方が男性よりも高くなっている。

図 2.7-2 地域や家庭で受け継がれてきた料理や食べ方・作法の次世代へ伝承（年齢別・全体）

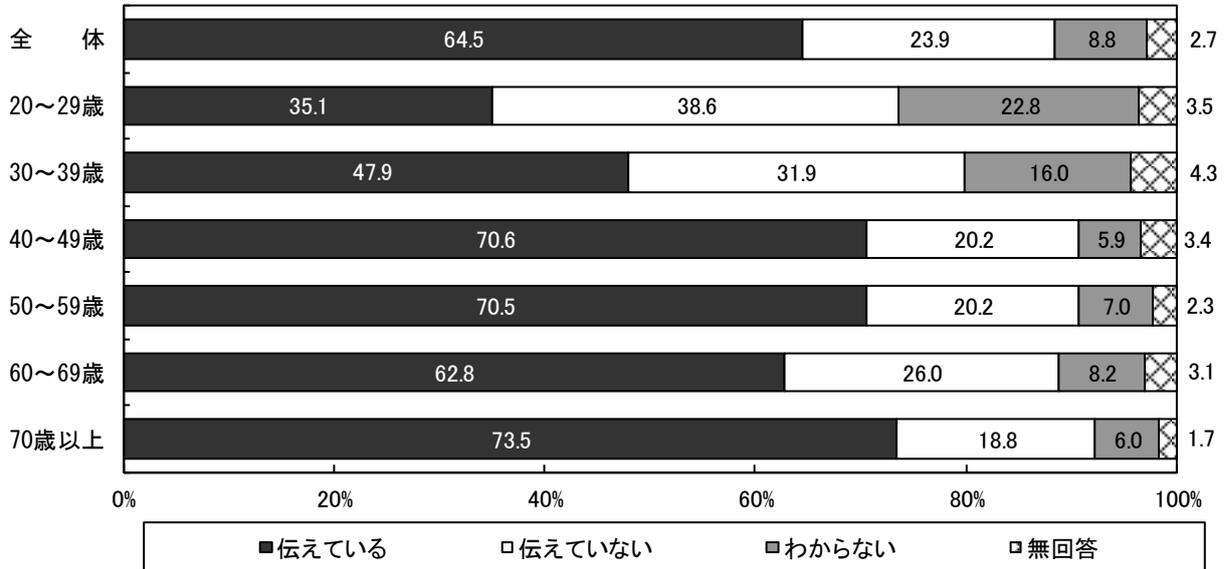
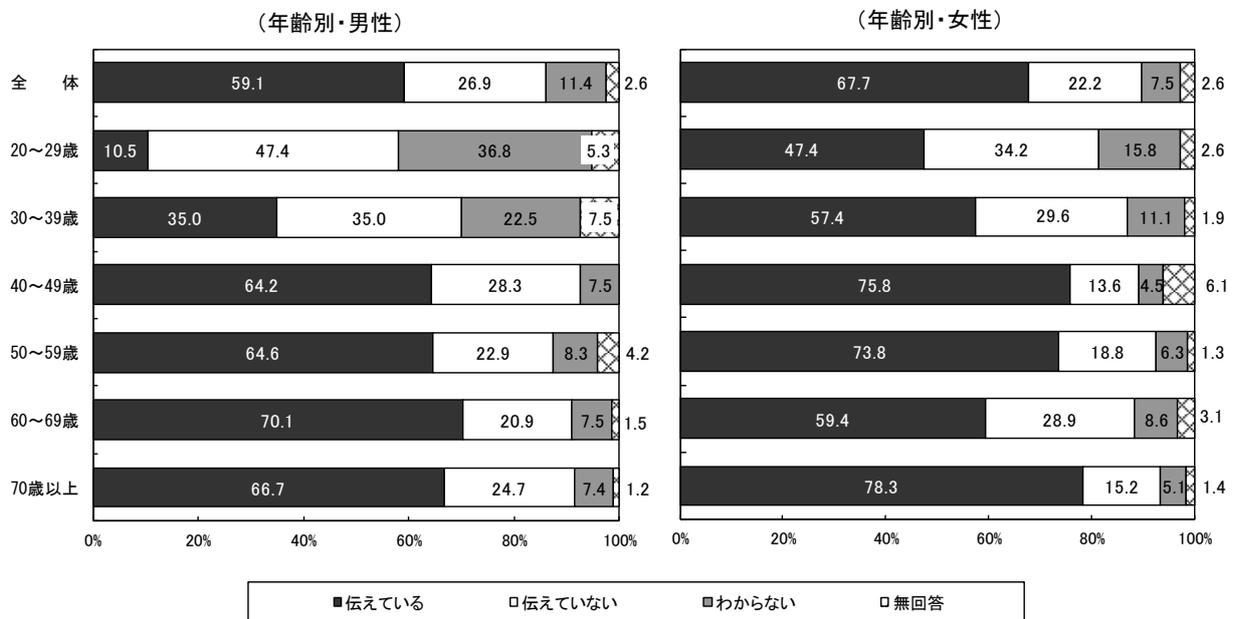


図 2.7-3 地域や家庭で受け継がれてきた料理や食べ方・作法の次世代へ伝承



	計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	年齢不明
全体	837	57	94	119	129	196	234	8
男性	308	19	40	53	48	67	81	0
女性	505	38	54	66	80	128	138	1

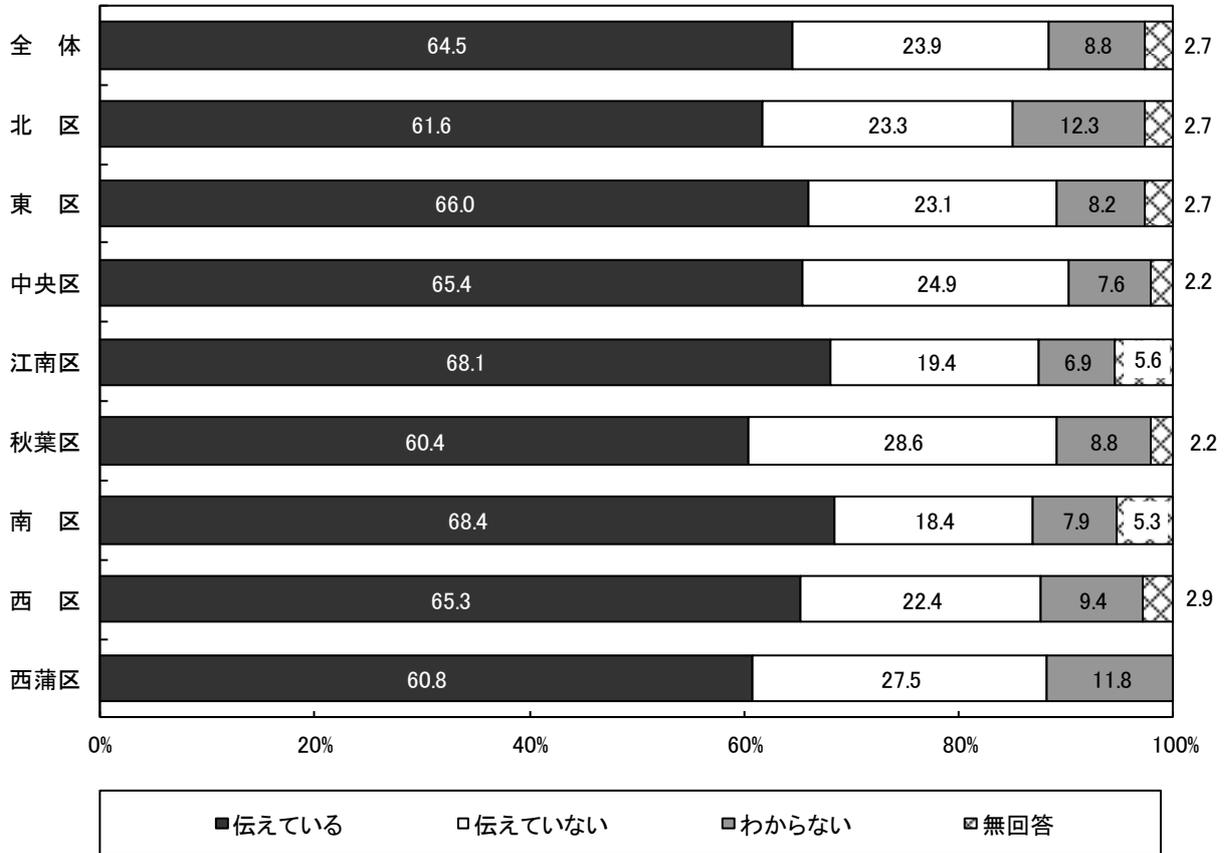
(人)

※性別不明・年齢不明者のグラフは省略した。

【地区別】

「伝えている」と回答した人の割合は、南区（68.4%）で最も高く、次いで江南区（68.1%）となっている。一方、「伝えていない」は秋葉区（28.6%）で他の地区に比べ高くなっている。

図 2.7-4 地域や家庭で受け継がれてきた料理や食べ方・作法の次世代へ伝承（地区別）



全体	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	地区不明
837	73	147	185	72	91	38	170	51	10

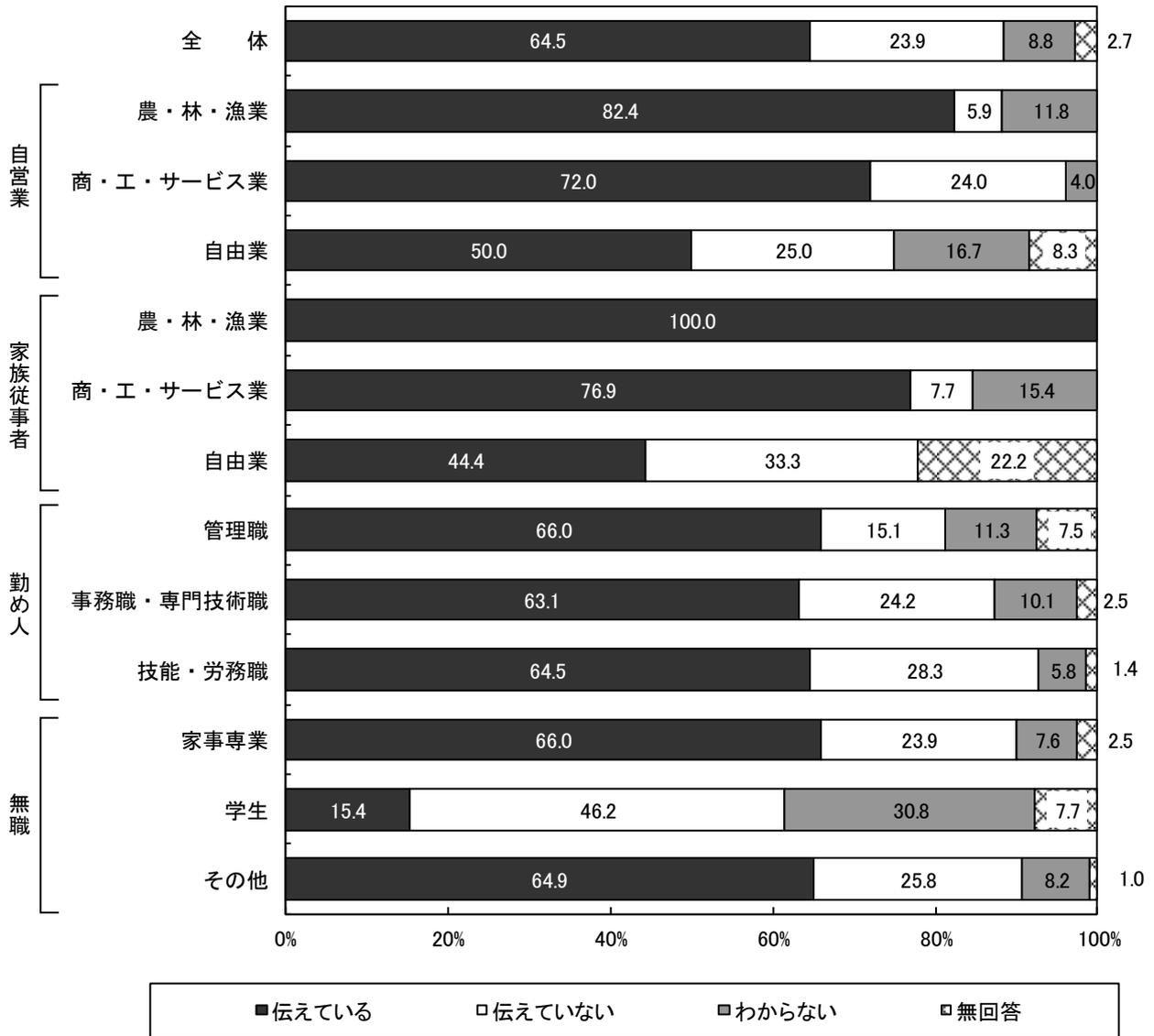
(人)

※地区不明者のグラフは省略した。

【職業別】

職種により対象者数に差があるため、図表のみの掲載とする。

図 2.7-5 地域や家庭で受け継がれてきた料理や食べ方・作法の次世代へ伝承（職業別）



全体	自営業			家族従事者		
	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業	農・林・漁業	商・工・サービス業	自由業
837	17	25	12	3	13	9

勤め人			無職			無回答
管理職	事務職・専門技術職	技能・労務職	家事専業	学生	その他	
53	198	138	238	13	97	21

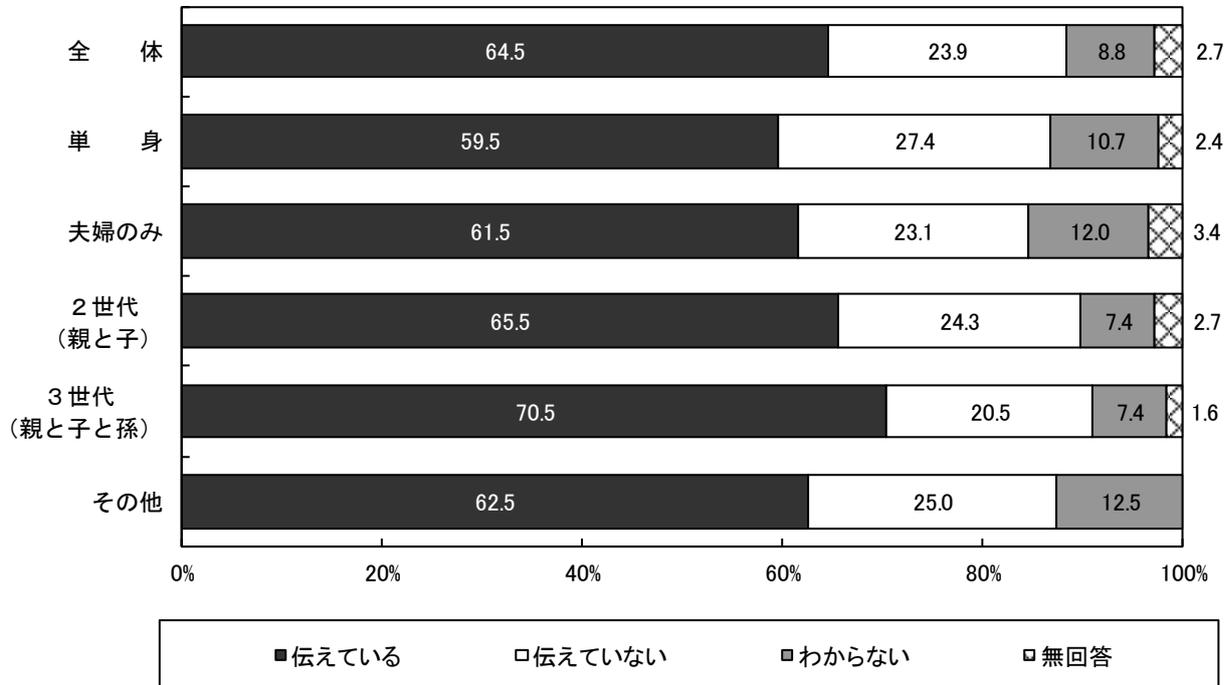
(人)

※無回答者のグラフは省略した。

## 【家族構成別】

「伝えている」と回答した人の割合は、3世代（親と子と孫）（70.5%）で最も高くなっている。一方、「伝えていない」と回答した人の割合は、単身（27.4%）で最も高くなっている。

図 2.7-6 地域や家庭で受け継がれてきた料理や食べ方・作法の次世代へ伝承（家族構成別）



全体	単身	夫婦のみ	2世代 (親と子)	3世代 (親と子と孫)	その他	無回答
837	84	208	403	122	8	12

(人)

※無回答者のグラフは省略した。